

第 10 次森町総合計画策定に向けた まちづくり検討会 報告書

【目 次】

1.1. 実施概要	1
1.2. 検討会メンバー及び各回の参加状況	2
1.3. 第 1 回まちづくり検討会.....	3
1.3.1. 実施方法.....	3
1.3.2. 実施記録.....	4
1.4. 第 2 回まちづくり検討会.....	15
1.4.1. 実施方法.....	15
1.4.2. 実施記録.....	17
1.5. 第 3 回まちづくり検討会.....	27
1.5.1. 実施方法.....	27
1.5.2. 実施記録.....	29
1.6. 第 4 回まちづくり検討会.....	40
1.6.1. 実施方法.....	40
1.6.2. 実施記録.....	42
1.7. 第 5 回まちづくり検討会.....	53
1.7.1. 実施方法.....	53
1.7.2. 実施記録.....	54

1.1. 実施概要

目 的	第 10 次森町総合計画の策定に向けて、森町が目指すべきまちづくりの方向性や取組について、様々な立場からご意見・ご提案をいただき、計画策定の参考とする。	
実施回数	全 5 回	
実施日時	第 1 回 令和 7 年 11 月 12 日（水） 19：00～20：50 第 2 回 令和 7 年 12 月 3 日（水） 19：00～20：50 第 3 回 令和 8 年 2 月 19 日（木） 19：00～20：50 第 4 回 令和 8 年 4 月 9 日（木） 19：00～20：50 第 5 回 令和 8 年 4 月 22 日（水） 19：00～20：50	
開催場所	町民生活センター 2 階集会室	
参加者	- 町内でまちづくりに携わる個人・団体、森町に関わりのある方（9 名） - 公募により参加希望のあった町民等（9 名） 計 18 名 第 1 回 17 名、第 2 回 15 名、第 3 回 12 名、第 4 回 13 名、第 5 回 17 名	
実施方法	グループワーク（4 グループ）	
各回の 議題 (テーマ)	第 1 回	◆オリエンテーション ◆町民・中学生アンケート結果や「ウェルビーイング」の考え方を共有する ◆私にとっての「幸せな暮らし」について考えよう
	第 2 回	◆町民にとっての「幸せな暮らし」について考えよう
	第 3 回	◆森町ならではの「幸せな暮らし」を実現するために強みと課題を見つけよう
	第 4 回	◆森町ならではの「幸せな暮らし」を実現するために必要な取組を考えよう
	第 5 回	町が主体で行う取組は？わたしたちが主体で行う取組は？

1.2. 検討会メンバー及び各回の参加状況

○:参加 (敬称略)

No.	氏 名	まちづくり検討会 参加状況					備考
		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	
1	鈴木 啓子	○	○	○	○	○	
2	甚沢 攻	○	○	欠席	○	○	
3	横山 春人	○	欠席	欠席	○	○	
4	望月 銀河	○	○	○	欠席	○	
5	岩田 百華	欠席	○	欠席	○	○	
6	辻 克美	○	欠席	○	○	○	
7	藤根 茉由子	○	○	○	欠席	○	
8	高木 佳寿子	○	○	○	欠席	○	
9	石田 翔平	○	欠席	欠席	○	○	
10	石川 羽美	○	○	○	○	○	森町総合計画 審議会委員
11	鈴木 昌美	○	○	欠席	欠席	○	
12	山口 伸	○	○	○	○	○	
13	原 弘幸	○	○	○	○	○	
14	増田 恭子	○	○	○	欠席	欠席	
15	永田 正義	○	○	○	○	○	
16	村松 静	○	○	○	○	○	
17	内山 謙一郎	○	○	欠席	○	○	
18	高橋 文子	○	○	○	○	○	

17 名参加 15 名参加 12 名参加 13 名参加 17 名参加

1.3. 第1回まちづくり検討会

1.3.1. 実施方法

(1) プログラム

時 間	内 容
19:00 ～ 19:02	開会挨拶
19:02 ～ 19:15	自己紹介
19:15 ～ 19:25	1.まちづくり検討会の目的
19:25 ～ 19:40	2.町民アンケート結果等の共有
19:40 ～ 19:45	3.本日のまちづくり検討会の進め方
19:45 ～ 20:35	4.話し合い
20:35 ～ 20:50	グループ発表
20:50	閉会（アンケート記入のお願い）

(2) グループワークの進め方

テーマ：私にとっての「幸せな暮らし」について考えよう

～どんなとき、どんな場面でこのまちはいいなと感じますか？～

- ① 自分の意見を出す：自身にとっての「暮らしの幸せ」とは何かについて、自由に考える。
各自、付箋に記入。1枚の付箋に意見は1つ。何枚書いてもよい。
- ② グループの意見を共有する：順番に一人ずつ模造紙に付箋を貼りながら、簡単に読み上げる。
- ③ さらに意見を出す：メンバーの意見を聞いて、追加の意見があれば、順番に付箋を模造紙に貼る。
- ④ 意見を分類する：共通する意見の付箋を近づけながら意見を分類し、見出しをつける。
- ⑤ 全員で意見を共有する：グループ内で話し合った結果を発表し、全員で共有する。

1.3.2. 実施記録

(1) テーマ

私にとっての「幸せな暮らし」について考えよう

～どんなとき、どんな場面でこのまちはいいなと感じますか？～

(2) 各グループの成果

a) A グループ

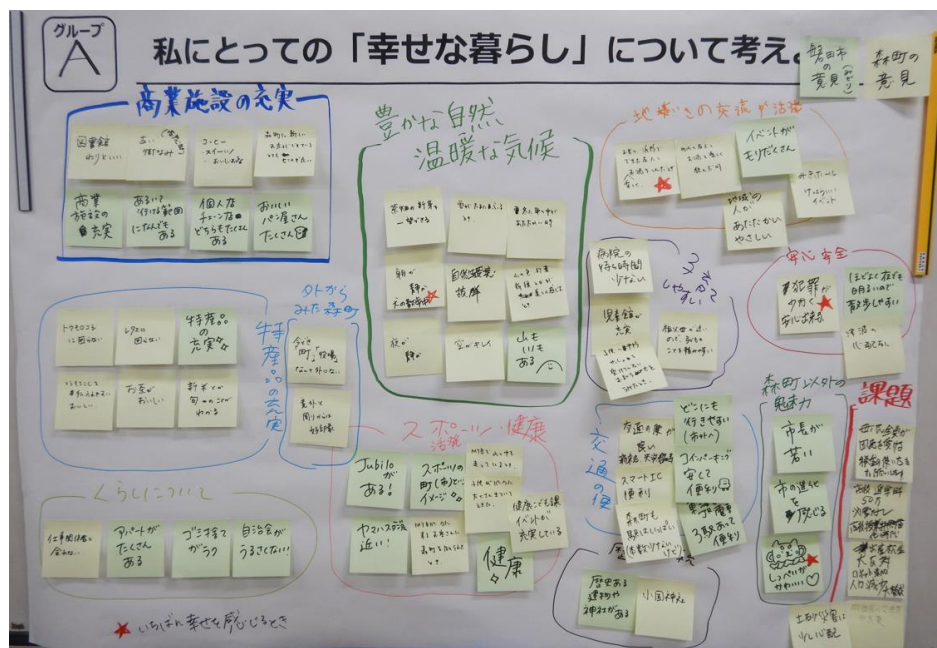
■ 模造紙の内容

分 類	内 容
豊かな自然、 温暖な気候	・茶畑の新芽を一望できる ・雪がたまに降るとき ・冬に車の中が温かいとき ・朝が静か（犬の散歩中）◎ ・山の色、紅葉、新緑とかが美しく感じたとき ・自然環境抜群 ・夜が静か ・空がきれい ・山も川もある★
特産品の充実	・トウモロコシに困らない ・レタスに困らない ・トウモロコシを手に入れやすい、おいしい ・新米とか旬のことがわかる ・特産品の充実★ ・お茶がおいしい
交通の便	・スマート IC 便利 ・どこにも行きやすい（市外へ）★ ・交通の便が良い（新東名、天浜線等） ・森町も駅はいっぱい（本数少ないけど） ・コインパーキング安くて便利★ ・東海、JR 電車、3 駅あって便利★
商業施設の充実	・図書館わりといい ・コーヒー、スイーツおいしい ・森町に新しいお店ができています。とてもセンスが良い ・歩いて行ける範囲になんでもある★ ・個人店、チェーン店どちらもたくさんある★ ・おいしいパン屋さんたくさん★ ・古い街なみ（森中心街） ・商業施設の充実★
スポーツ、健康、 活発	・Jubilo がある★ ・ヤマハスタジアムが近い★ ・スポーツの町（市）というイメージ★ ・MTB パーク来るお客さんに森町を褒められたとき ・健康こども課イベントが充実している ・MTB で山の中を走っているとき、子どもがパークにたくさんきているとき ・健康★
地域の交流が 活発	・地域の人があたたかい、やさしい ・お祭り、消防でできた友人と楽しくお酒を飲んだとき◎ ・町内の友人とお酒を楽しく飲んだとき ・みきホールでけっこういいイベント ・イベント盛りだくさん★
子育てしやすい	・病院の待ち時間が少ない ・子どもの予防接種を受けていないお知らせをうけたとき ・祖父母が近いので、子どものことを頼みやすい ・児童館が充実

分 類	内 容
歴史、伝統	・ 歴史ある建物や神社がある★ ・ 小国神社
外からみた森町	・ 今どき「町」、「役場」なんて外にない ・ 意外と周りからは好印象
安心安全	・ 犯罪が少なく、安心できる◎ ・ 津波の心配なし ・ 程よく夜でも明るいので散歩しやすい★
くらしについて	・ 仕事関係者に会わない ・ ゴミ捨てがらく★ ・ アパートがたくさんある★ ・ 自治会がうるさくない★
森町以外の魅力	・ 市長が若い★ しっぺいがかわいい★◎ ・ 市の進化を感じる★

(★：町外在住の方のご意見 ◎：最も幸せを感じる時)

課 題
・ 土砂災害は少し心配 ・ 町民全員が恩恵を受ける税金の使い方をお願いします ・ 高校進学時 50 万必要なし。高校授業無償化時代 ・ 出産祝金大反対、ロボット増加、人口減少、大賛成



■ グループ発表

- 共通して多く挙げたのは、豊かな自然と温暖な気候であり、静かな朝の散歩ができる環境など、日常の心地よさが評価された。
- また、商業施設が充実し、良い店が多いこと、地域交流やイベントが活発である点も魅力として挙げられた。
- さらに、お米・お茶・トウモロコシなどの特産品がおいしいことも、暮らしの満足度につながっている。
- 森町の意見として特徴的だったのは、子育てのしやすさで、病院の待ち時間が少ないことや児童館が充実している点、犯罪が少なく安心・安全な環境が評価された。加えて、交通利便性（スマートインターチェンジや複数の駅の存在）や、スポーツ環境（マウンテンバイクなど）も挙げられた。
- 町外在住者（磐田市）の魅力としては、公式キャラクター「しっぺい」がかわいいという意見もあり、町への親しみやすさが印象として残っている。
- 個人的な幸せのポイントとしては、消防団や祭りを通じてできた仲間とお酒を楽しむ時間など、人とのつながりが暮らしの充実感につながっているという声もあった。
- また、外から見た森町の印象として、周囲から意外と好印象を持たれているという評価も共有された。

b) B グループ

■ 模造紙の内容

分 類	内 容
身土不二	・ お茶がおいしい ・ 豊富な水がある ・ 新東名で交通の便がいい ・ その土地の恵みを頂けるとき（食べ物、水、燃料（薪、杉葉）） ・ 野菜づくり（自分で作ったりもらったりするとき）
行政サービスが 感じよくて安心	・ 病院がある ・ 家庭医療クリニックがある ・ 役場感じいい ・ 公立病院がある ・ 職員と住民の距離が近い
ハマればヤミツ キ、人の愛	・ 地域と人との交流 ・ 地域の団結力 ・ 人間関係が近い ・ 愛が深い ・ 参加できるイベントが多い（交流が増える） ・ 地域のおじいちゃん、おばあちゃんとの交流（共同作業） ・ 言葉が（方言）があったかい ・ 森町の地域の人々が楽しそうに誇らしげに町の話をしてくれるとき ・ 人間関係がうまくいけばとってもよい ・ 地域の子どもの成長をうれしく？心配したり、かなり身近に感じるとき
自然いっぱい 心とらぐ町	・ 森川橋から見る夕日がきれい ・ 季節の移ろいが身近に感じられる ・ 自然の移ろい、変化（生き物、植物）を感じられるとき ・ 天然動物園（しか、いのしし、さる、フクビシン等） ・ 地域、自然を守りたいと感じるとき、危機感のウラ側？
見ても住んでも ...幸せ	・ 静かな住環境 ・ 町並にいろいろな発見がある ・ 歴史や文化を勉強できる ・ 森の中の暮らしを家族で楽しんでいるとき ・ 自分、家族で手作りのもので暮らしができていくとき（米、お味噌、家、机）
子どもイキイキ のびのび、大人 幸せ	・ 校庭で遊ぶ子どもたち ・ 子どもたちが素直でよい ・ 子どもたちとあいさつ、会話ができる ・ 高校がある／祭りで子どもが育つ、みんなで守る、育てる



■ グループ発表

① 身土不二（しんどふじ）

- 「体と土は切り離せない」という考え方を基に、その土地の恵みをいただくことが健康や幸せにつながるという価値観が共有された。
- お茶・水・野菜などが美味しいこと、自然が豊かで、土地のものを日常的に味わえる暮らしが大きな魅力として挙げられた。

② 自然いっぱい心で心和らぐ町

- 森川橋からの夕日、四季の移ろい、身近な動物たち（「天然動物園」と表現）など、自然の変化を日常的に感じられることが幸せだという声が多かった。
- また、「自然や地域を守りたいと感じる気持ちは、危機感の裏返しでもある」という指摘もあり、自然との距離が近いからこそその意識が語られた。

③ 交通の利便性と行政サービスの安心感

- アンケートでは「交通の便が悪い」という意見があった一方で、新東名高速道路のインターが2か所利用できる点は実は大きな利点だと再認識された。
- さらに、役場・病院・家庭医療クリニックなど、行政サービスや医療の対応が丁寧で人との距離が近いことが高く評価され、森町外の住民からも「森町の病院のほうが安心」との声があることが紹介された。

④ 暮らしやすい住環境と日常の豊かさ

- 静かな住環境、手作りのものや自然の恵みを取り入れる暮らし、小さな町並みの発見、歴史や文化を日常の中で感じられる点などが、暮らしの満足感につながっているとされた。その結果、「見ても住んでも幸せ」という表現に集約された。

⑤ 子どもがのびのび、大人も幸せ

- 子どもたちが自然に挨拶をしてくれること、地域の人々が子どもを温かく見守り育てていることが印象的なエピソードとして語られた。
- また、遠江総合高校が町の中に残っていることは、教育の選択肢として非常に貴重だという意見もあり、子育て環境の良さが強調された。

⑥ ハマればやみつき 人の愛

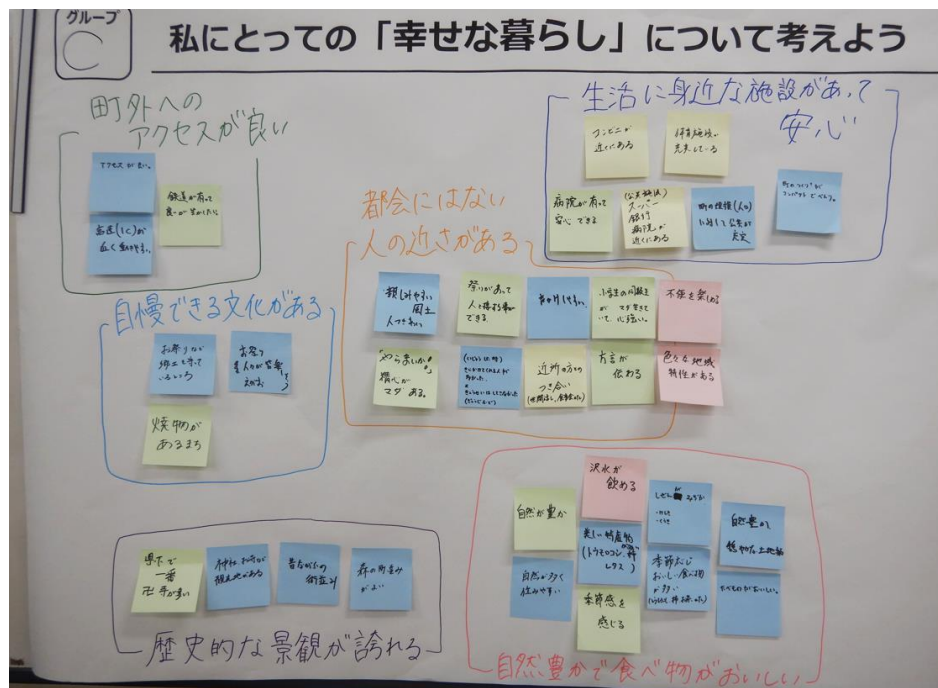
- 長年住む人と移住者の視点の違いを踏まえつつ、人が温かく、地域の団結力が強いことが大きな魅力として挙げられた。
- 一方で、「合わないとき少し大変な面もある」という現実も認めつつ、助け合いや人の愛の中でうまく関われば、とても幸せに暮らせる町だという結論に至った。

c) C グループ

■ 模造紙の内容

分 類	内 容
都会にはない人の近さがある	・ 親しみやすい国土、人付き合い、声掛けしやすい ・ 小学生の同級生がいて心強い ・ 近所の方との付き合い（世間話、食事会 etc）★ ・ 方言が伝わる／いろいろな地域特性がある ・ （移住したとき）気にかけてくれる人が多かった、（行事など）強制してこなかった ・ 不便を楽しめる ・ 祭りがあって人と接する事ができる・「やらまいか」精神がまだある
町外へのアクセスが良い	・ アクセスが良い ・ 高速（IC）が近く動きやすい ・ 鉄道があって良いが、活かしたい
生活に身近な施設があって安心	・ コンビニが近くにある★ ・ 体育施設が充実している★ ・ 町のづくり？がコンパクトで便利 ・ 病院があって安心できる ・ スーパー、銀行、病院（公共施設）が近くにある★ ・ 町の規模（人口）に対して公共が充実
自然豊かで食べ物おいしい	・ 自然豊か ・ 沢水が飲める ・ 自然が身近、景色、空気 ・ 自然豊か、穏やかな土地柄 ・ 食べ物おいしい、季節感を感じ ・ 自然が多く住みやすい ・ 美しい特産物が多い（トウモロコシ、柿、レタス） ・ 季節に応じたおいしい食べ物が多い（トウモロコシ、柿、お茶 etc）
自慢できる文化がある	・ お祭りなど郷土を守っているところ・焼物があるまち ・ お祭り、人々がみんな楽しそう、笑顔
歴史的な景観が誇れる	・ 県下で一番寺が多い ・ 神社、お寺など観光地がある ・ 昔ながらの町並み ・ 森町の町並みがよい

（★：町外在住の方のご意見）



■ グループ発表

① 人柄の良さ・人の近さ

- 最も多く挙げたのは、森町の人の温かさや距離の近さである。
- 移住者の視点からは、声をかけてくれる親しみやすさのおかげで「なじみやすかった」という実感が語られた。
- また、もともと住んでいる人たちの「やрмаいか精神」や、森町が誇れる人物・文化の存在が、町の個性として評価された。

② 交通アクセスの良さ・利便性

- 町内外へのアクセス面では、インターチェンジが近いことが大きな利点として挙げられた。
- 他地域から訪れやすく、逆に森町に住む人が外へ出かけやすい点も含め、生活上の利便性が高い町だと認識されている。

③ コンパクトで安心できる生活環境

- 森町の規模に対して、病院・消防・警察といった生活に身近な施設がコンパクトに整っていることが、安心感につながっている。
- 日常生活の中で「守られている」「安心して暮らせる」と感じられる点が、幸せの土台になっている。

④ 自慢できる文化・祭り

- 森町といえば「森のまつり」という認識が強く、町の大きな誇りとして語られた。
- 祭りの期間中、住民が生き生きとし、笑顔にあふれる様子が印象的で、周辺地域が森町の祭りを手本にしてきた歴史も紹介された。
- こうした誇れる文化を持っていること自体が幸せだという意見で一致した。

⑤ 自然の豊かさと食の魅力

- トウモロコシ・お米・柿などの特産物に代表されるように、自然が豊かで食べ物がおいしいこと、そして季節感を日常的に感じられる暮らしが心地よさにつながっているとされた。

⑥ 歴史と景観のある町並み

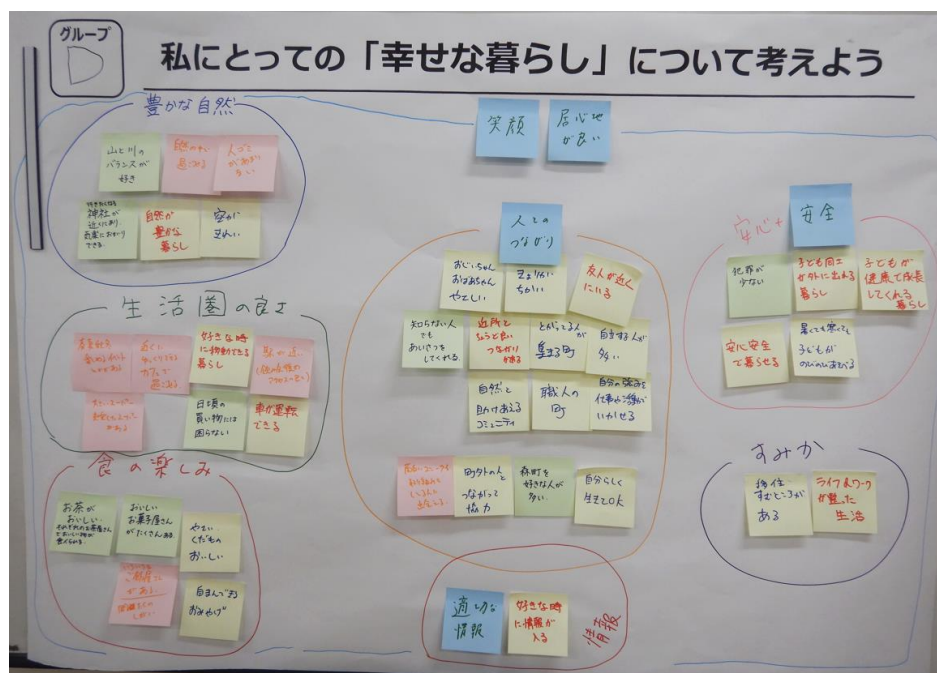
- 森町はお寺が多く、本町や被災を乗り越えて残る昔ながらの町並みなど、歴史的景観に恵まれている。
- 歩いていて気持ちがよく、他にはない魅力として、「住んでいて誇れる・暮らしやすいまち」という評価に結びついた。

d) D グループ

■ 模造紙の内容

分 類		内 容
笑顔、居心地がよい	人とのつながり	・人とのつながり ・とがっている人が集まる町 ・距離が近い／友人が近くにいる ・自分らしく生きて OK ・知らない人でも挨拶をしてくれる ・おじいちゃん、おばあちゃんやさしい ・近所とちょうど良いつながりがある ・自立する人が多い／自然と助け合えるコミュニティ ・職人の町／自分の強みを仕事や活動で活かせる ・面白い、ユニークな取り組みをしている人に出会える★ ・町外の人とつながって協力／森町を好きな人が多い
	食の楽しみ	・野菜、果物、おいしい ・自慢できるお土産 ・お茶がおいしい、それぞれのお茶屋さんでおいしい物が食べられる ・おいしいお菓子屋さんがたくさんある★ ・いろいろな飯屋さんがある、開拓のしがい
	住みか	・移住、住むところがある ・ライフ＆ワークが整った生活
	情報	・適切な情報 ・好きなときに情報が入る
	生活圏の良さ	・好きなときに移動できる暮らし ・日頃の買い物には困らない ・春夏秋冬楽しめるイベントとかがある★ ・近くにゆっくりできるカフェで過ごせる★ ・駅が近い（飲み会後のアクセスが良い）★ ・大きいスーパー充実したスーパーがある★
	豊かな自然	・山と川のバランスが好き ・自然の中で過ごせる★ ・自然が豊かな暮らし／空がきれい ・人ゴミがあまりない★ ・生きたくなる神社が近くにあり、気楽にお参りできる
	安心安全	・安全／犯罪が少ない／安心安全で暮らせる ・子ども同士が外に出れる暮らし ・子どもが健康で成長してくれる暮らし ・暑くても寒くても子どもがのびのび遊べる

(★：町外の方のご意見)



■ グループ発表

① 人とのつながりの良さ

- 最も多く挙げたのは、人との距離が近く、自然と関係が生まれることである。
- 知らない人同士でも挨拶を交わし、すぐに打ち解けられる雰囲気があり、近所に知り合いが多い環境は都会にはない魅力だとされた。
- 特に、子どもにとっては友達が身近におり、電車で移動しなくても遊べる距離に人間関係がある点が幸せにつながっている。

② 生活に根ざした情報の流れ

- デジタルな情報だけでなく、隣近所から自然に情報が入ってくる環境も特徴として挙げられた。
- 良い意味で情報が共有されやすく、地域の出来事や暮らしに必要なことがすぐに伝わる点が、安心感や暮らしやすさにつながっている。

③ 交通利便性と移動の自由さ

- 自然に囲まれていながらも、インターチェンジが近く、掛川や浜松へ車ですぐ行けるため、「行きたいときに行ける」「好きなときに移動できる」自由さがあることも、幸せな暮らしの要素として挙げられた。

④ 食の楽しみ

- お茶や和菓子、お菓子屋さんなど、森町ならではの美味しい食べ物が身近にあることが、日常の楽しみとして評価された。食を通じた豊かさが、暮らしの満足度を高めている。

⑤ 安心・安全な子育て環境

- 子どもが家から自由に外へ出て、公園などでのびのび遊べる環境が残っていることは、「実はとても貴重で幸せなこと」だという意見が共有された。
- 安心・安全に暮らせるまちであることが、特に子育て世代にとって大きな価値となっている。

⑥ 居心地の良さと笑顔のあるまち

- これらすべての要素が重なり合い、森町は「居心地がいいまち」「笑顔があふれるまち」という結論に至った。
- 具体的な個別要素を超えて、住んでいる人が自然体でいられること自体が、森町の最大の魅力であるとまとめられた。

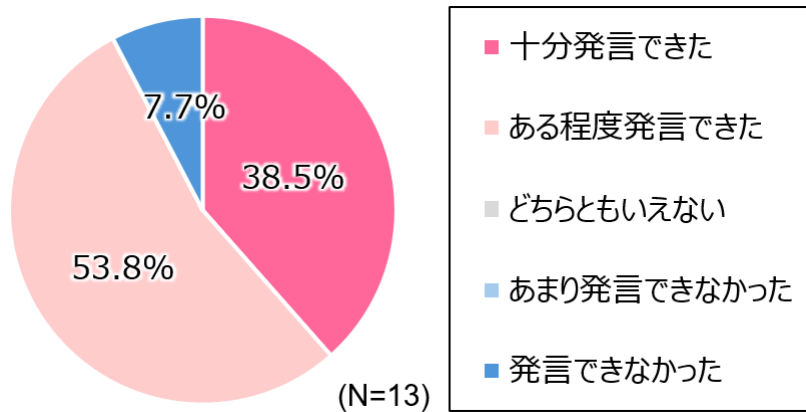
(3) 実施状況写真



(4) 参加者アンケート

a) 自分の意見を十分に発言できたか

問1	「森町まちづくり検討会」ではご自分の意見を十分に 発言出来ましたか。	回答数	回答割合 (%)
選択肢	1 十分発言できた	5	38.5%
	2 ある程度発言できた	7	53.8%
	3 どちらともいえない	0	0.0%
	4 あまり発言できなかった	0	0.0%
	5 発言できなかった	1	7.7%
	0 不明・無回答	0	0.0%
合計		13	100.0%



1.4. 第2回まちづくり検討会

1.4.1. 実施方法

(1) プログラム

時 間	内 容
19:00 ～ 19:01	開会
19:01 ～ 19:10	1.第1回まちづくり検討会の振り返り
19:10 ～ 19:15	2.本日のまちづくり検討会の進め方
19:15 ～ 20:50	3.話し合い
20:50	閉会（アンケート記入のお願い）

(2) グループワークの進め方

テーマ：町民にとっての「幸せな暮らし」について考えよう

～第1回検討会の結果を踏まえながら世代別に深掘りしてみよう～

a) 話し合いの進め方

- ① 自分の意見を出す：各自の考えを付箋に記入。1枚の付箋に意見は1つ。何枚書いてもよい。
- ② グループの意見を共有する：順番に一人ずつ模造紙に付箋を貼りながら、簡単に読み上げる。
- ③ さらに意見を出す：メンバーの意見を聞いて、追加の意見があれば、順番に付箋を模造紙に貼る。
- ④ 意見を分類する：共通する意見の付箋を近づけながら意見を分類し、見出しをつける。

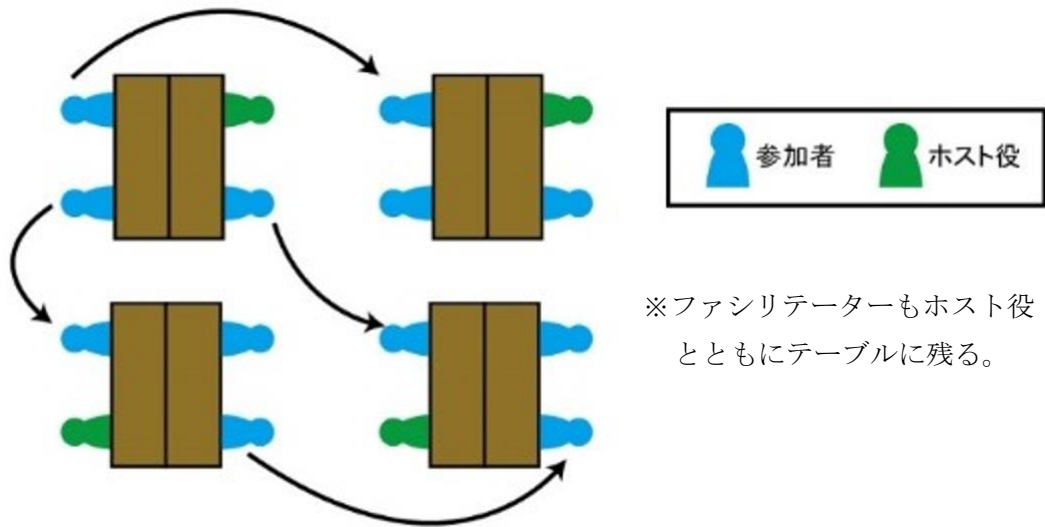
b) ワールドカフェ方式

ワークショップの手法の一つである「ワールドカフェ」方式で進める。

- ① カフェのようなリラックスした雰囲気の中、4～5人の少人数のテーブルでテーマに沿って自由に話し合う。
- ② 各テーブルに残る人（ホスト役）を1人決めて、残りのメンバーは他のテーブルへばらけて移動する。
- ③ ホスト役は新たなメンバーを出迎え、直前のテーマで話し合った内容を共有する。メンバーとともに、新たなテーマについて話し合う。

【席替えのイメージ】

メンバーをシャッフルすることで、他のテーブルの意見を共有でき、短時間で密度の濃い話し合いができる。



c) 他のテーブルの見学

他のテーブルにどんなことが書かれたのか、見て回る。

d) 意見の整理・共有

自身の考えを意見 1 件に付き、A5 用紙 1 枚を使って記入する。書いた意見を内容が近いと思った場所に貼る。

1.4.2. 実施記録

(1) テーマ

町民にとっての「幸せな暮らし」について考えよう

グループによって、異なる「世代」を対象として話し合いを行った。

A グループ：こども（目安：0 歳から高校生）

B グループ：若者（目安：高校生・大学生～20 代）

C グループ：子育て・働き盛り世代（目安：20 代～60 代）

D グループ：高齢者世代（目安：65 歳以上）

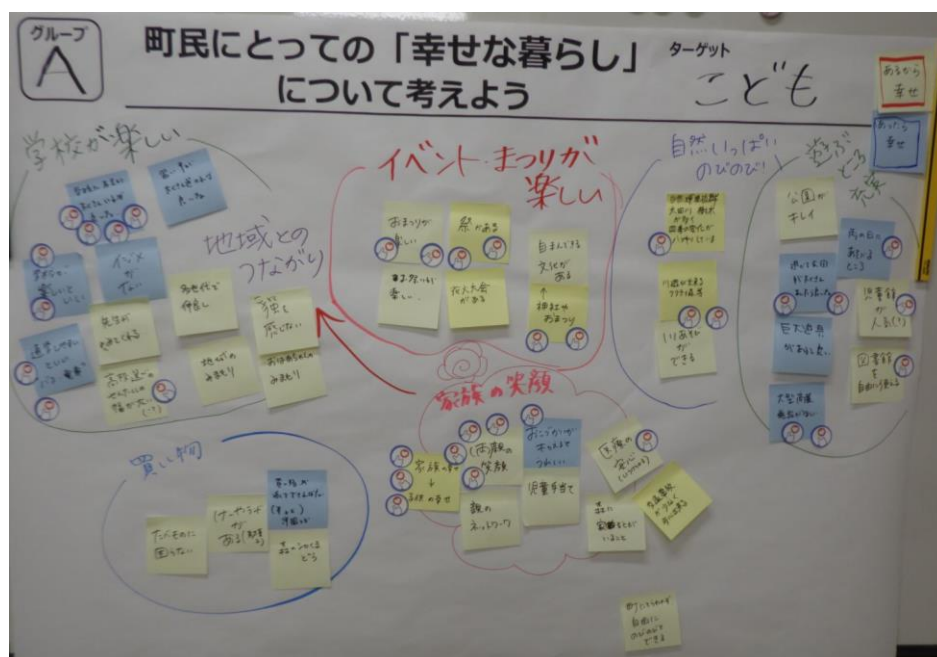
(2) 各グループの成果

a) Aグループ

■ 模造紙の内容

分 類	内 容
学校が楽しい	◆ 学校に友達がたくさんいれば良いな (4) ◆ 通学しやすいといい「バス・電車」(2) ◆ 学校が楽しいといい (2) ◇ 先生がよく見てくれる ◆ 習い事がたくさん選べれば良いな ◆ イジメがない ◇ 高校選びの選択肢の幅が広い
地域とのつながり	◇ 多世代で仲良し ◇ 孤独を感じない ◇ 地域の見守り ◇ おばあちゃんの見守り
買い物	◇ 食べ物に困らない ◇ けーやランドがある (駄菓子) ◆ 買い物が近くでできれば良い (本とか洋服) ◇ 森のシロくま堂
遊ぶところ充実	◆ 遊べる公園がたくさんあったら良いな (2) ◆ 大型商業施設がほしい (2) ◇ 児童館が人気? (1) ◇ 公園がきれい ◆ 雨の日に遊べる場所 (1) ◇ 図書館を自由に使える (1) ◆ 巨大遊具があると良い
家族の笑顔	◇ 家族の幸せ、子どもの幸せ (4) ◆ お小遣いが貰えると嬉しい (児童手当) (1) ◇ 森に家族がいること (1) ◇ 医療の安心 (安心して受けられる) ◇ 両親の笑顔 (3) ◇ 親のネットワーク ◇ 交通事故が少なく安心できる
イベント・祭りが楽しい	◇ お祭りが楽しい (2) ◇ 自慢できる文化がある (神社やお祭り) (2) ◇ 花火大会がある ◇ 祭りがある (2)
自然いっぱい、のびのび	◇ 川遊びができる (アクティ森等) (2) ◇ 自然環境抜群。太田川、樹木が多く四季の変化がハッキリしている (1)
その他	◇ 町にとらわれず、自由にのびのびとできる

(◆: あったら幸せ ◇: あるから幸せ () 内の数字は「いいね」の数)



b) B グループ

■ 模造紙の内容

分 類	内 容
安心	・ 治安がいい (5) ・ 町のことを好きだという人がいる (1) ・ 人混みがなくて落ち着く ・ 親が生き生きしてる
生活	・ 就職先 (希望の仕事) がある (7) ・ 第3の場所、居場所 (家でも学校でも会社でもない) (3) ・ 通える学校が増える (1) ・ 高速利用しやすい (1) ・ 病院があつていい (1) ・ 天浜線がある ・ 専門学校 ・ 高校がある。しかも総合高校
発信	・ SNS で森町が出てくると良い所だなと思います (2) ・ ふるさと便 (1) ・ ロールモデルの存在 ・ 基本的な情報をネットで知ることができる
仲間	・ 先輩が生き生きしてる (1) ・ 同世代がたくさん居ると嬉しい ・ 自習室 ・ 人情を感じられるつながり
娯楽	・ おいしいお菓子屋さん・お茶屋さん (4) ・ 飲食店が増える (2) ・ 喫茶店 (1) ・ 本屋 ・ スタバ ・ カラオケ ・ パチンコ ・ 映画館
その他	・ 熱中できるものがある

() 内の数字は「いいね」の数

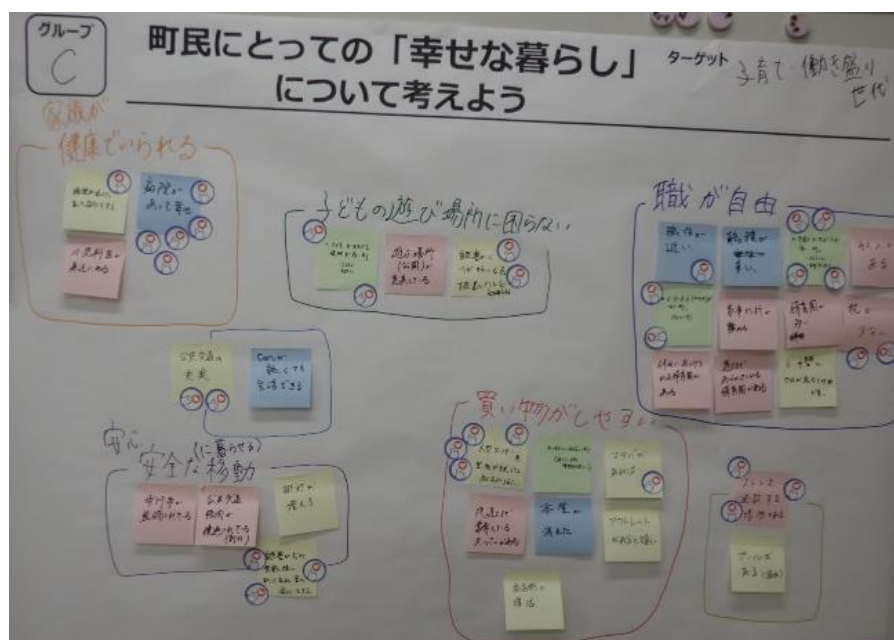


c) C グループ

■ 模造紙の内容

分 類	内 容	
安心・安全に暮らせる安心・安全な移動	・自然豊かだが、災害に強い町であると更に安心できる（３） ・公共交通機関が優遇されている（割引） ・歩行帯が整備されている ・街灯が増える	
子どもの遊び場所に困らない	・子どもが遊べる場所が多い町（公園・スポーツ）（２） ・自然豊かで川がきれいな為、子ども達と川にすぐ入れる（２） ・遊ぶ場所が充実している（公園）	
職が自由	・子育てのサポートが多い町（病院・預けられる）（４） ・インターネット（アクセス）が強い町（テレワーク）（２） ・税が少ない（２） ・職・住が近い（１） ・職種が多い ・収入がある ・家事代行が頼める ・保育園が多い ・休日に預けられる保育園がある ・遅くまで預かってくれる保育園がある ・小・中学校とクラスで顔なじみが多い	
公共交通の充実	・公共交通の充実（２） ・車が無くても生活できる	
ストレス発散する場所がある	・ストレス発散する場所がある（３） ・プールがある（温水）	
家族が健康でいられる	・病院があって幸せ（５） ・小児科医が身近にある	・病院が近くにあって安心できる（１）
買い物がしやすい	・大型スーパー等、買い物が充実できる店があると嬉しい（４） ・スタバがあれば...（１） ・アウトレットがあると嬉しい ・買い物に困らない町（遠くに行く時間がない） ・夜遅くまで営業しているスーパーがある ・商店街の復活 ・本屋が消えた	

（ ）内の数字は「いいね」の数）

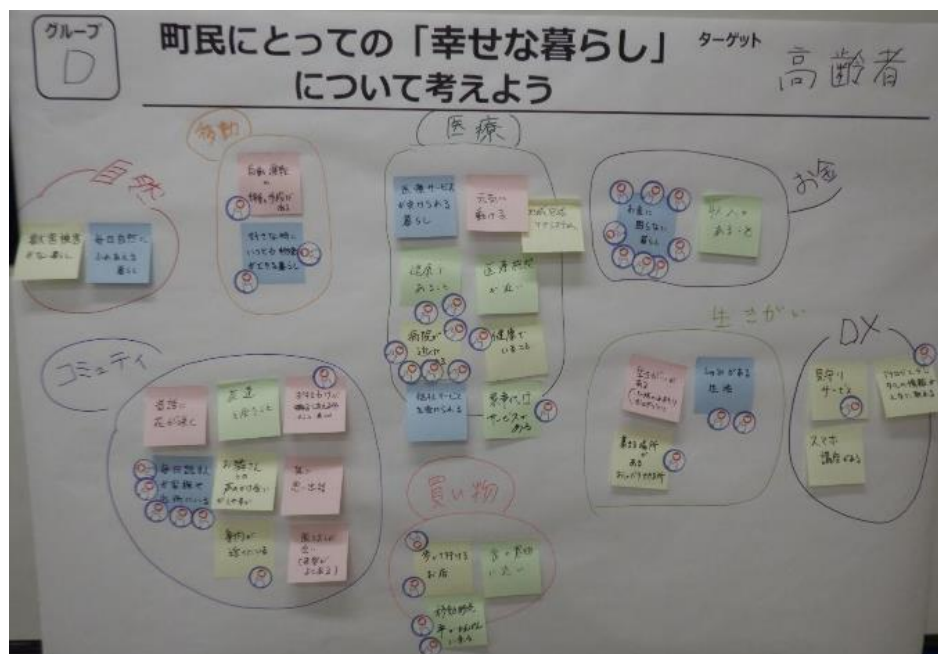


d) D グループ

■ 模造紙の内容

分 類	内 容
自然	・ 獣害被害がない暮らし ・ 毎日自然にふれあえる暮らし
生きがい	・ 趣味がある生活 (2) ・ 集まる場所がある (おしゃべりできる所) (1) ・ 生きがいがある (ひ孫の見守り・おはぎ作り)
買い物	・ 歩いて行けるお店 (2) ・ 移動販売車が頻繁に来る (2) ・ 食の買い物に近い
医療	・ 病院が近くにある (7) ・ 健康であること (2) ・ 健康でいること (1) ・ 元気に動ける ・ 家事代行サービスがある (1) ・ 医療施設が近い ・ 地域包括ケアシステム ・ 医療サービスが受けられる暮らし ・ 福祉サービスを受けられる
移動	・ 好きな時にいつでも移動ができる暮らし (2) ・ 自動運転の移動手段がある (1)
DX	・ 見守りサービス (1) ・ スマホ講座がある ・ アナログとデジタルの情報が上手に取れる (1)
お金	・ お金に困らない暮らし (8) ・ 収入があること
コミュニティ	・ 毎日話す人が家族や近所にいる (5) ・ おすそわけがしあえる仲 (大福・煮つけ) (1) ・ 身内が近くにいる (1) ・ 友達と会うこと ・ 昔話に花が咲く ・ 孫に思い出話 ・ お隣さんとの声の掛け合いがしやすい ・ 風通しが良い (来客がよくある)

() 内の数字は「いいね」の数



(3) まとめ

テーマ：森町ならではの『幸せな暮らし』を考えよう

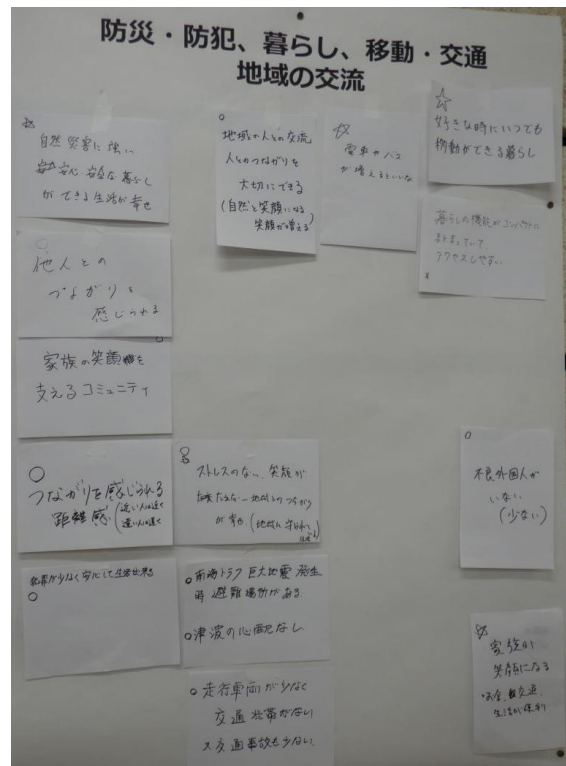
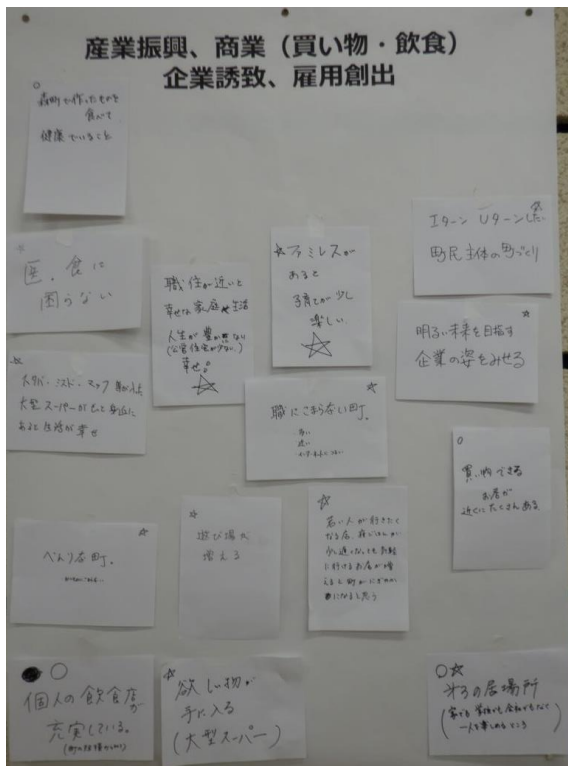
～世代によらず、森町ならではの幸せな暮らしとは？～

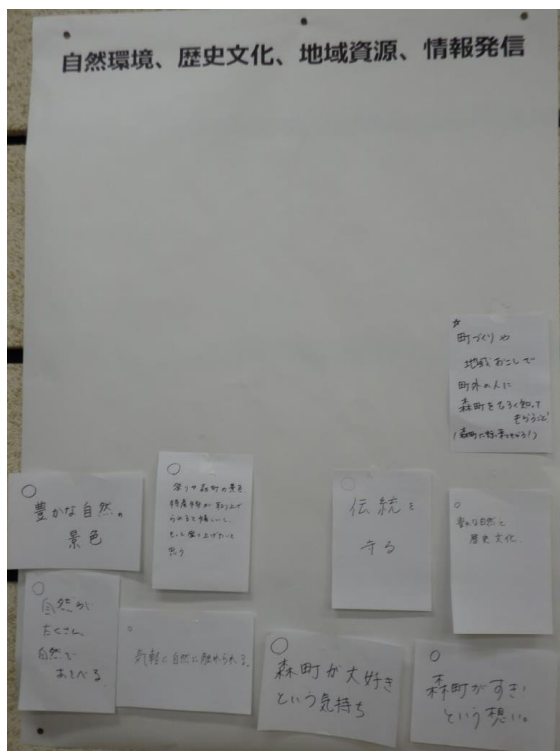
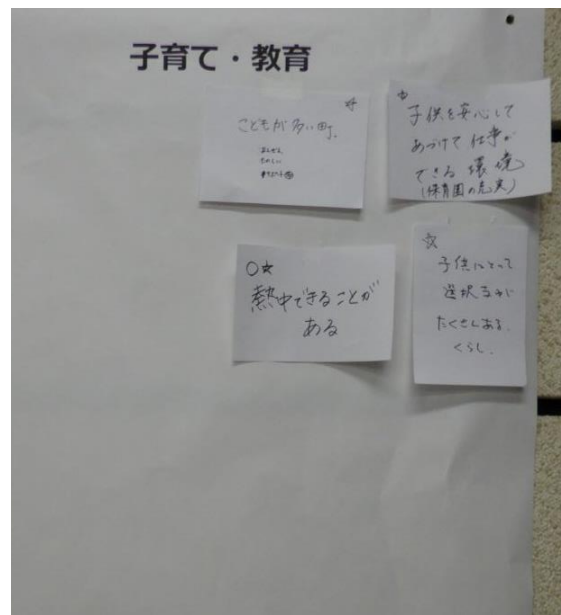
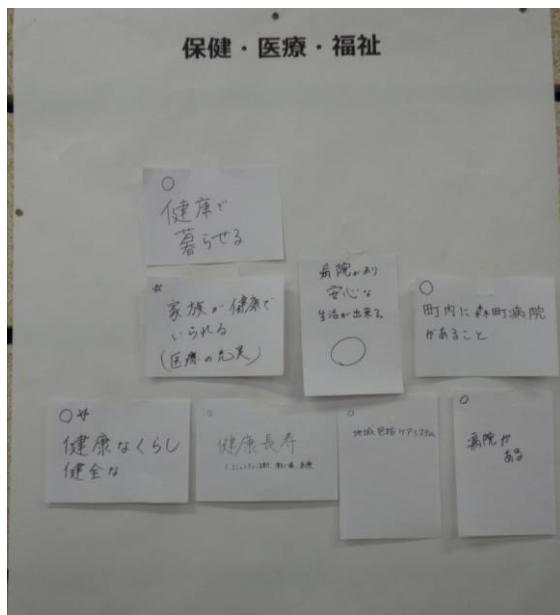
■ 模造紙の内容

分 類	内 容
産業振興、商業 (買い物・飲食) 企業誘致、雇用 創出	・森町で作ったものを食べて、健康でいること○ ・医・食に困らない★ ・スタバ・ミスド・マック等が入った、大型スーパーがもっと身近にあると生活が幸せ★ ・個人の飲食店が充実している（町の規模からみて）○ ・職・住が近いと幸せな家庭や生活、人生が豊かになり幸せ（公営住宅が少ない）★ ・欲しいものが手に入る（大型スーパー）★ ・ファミレスがあると子育てが少し楽しい★ ・職に困らない町（多い・近い・インターネットに強い）★ ・若い人が行きたくなる店、夜ご飯が少し遅くなっても気軽に行けるお店が増えると町が賑やかになると思う★ ・Iターン・Uターンしたい町民主体の町づくり★ ・明るい未来を目指す企業の姿をみせる★ ・買い物できるお店が近くにたくさんある○ ・第3の居場所（家、学校、会社でもない1人で楽しめる所）○★ ・便利な町（買い物に困らない）★ ・遊び場が増える★
防災・防犯、 暮らし、移動・ 交通、地域の交 流	・自然災害に強い、安心・安全な暮らしができる生活が幸せ★ ・他人とのつながりを感じられる○ ・家族の笑顔を支えるコミュニティ○ ・つながりを感じられる距離感（近い人は近く、遠い人は遠く）○ ・犯罪が少なく安心して生活出来る○ ・地域の人との交流・人とのつながりを大切にできる（自然と笑顔になる、笑顔が増える）○ ・ストレスのない笑顔が絶えない地域とのつながりが幸せ（地域に守られている生活）○★ ・南海トラフ巨大地震発生時の避難場所がある。津波の心配なし○ ・走行車両が少なく、交通渋滞がない、また交通事故も少ない○ ・電車やバスが増えるといいな★ ・好きな時にいつでも移動ができる暮らし★ ・暮らしの機能がコンパクトにまとまっていて、アクセスしやすい★ ・不良外国人がいない（少ない）○ ・家族が笑顔になる（お金・交通・生活が便利）★

分 類	内 容
保険・医療・福祉	・家族が健康でいられる（医療の充実）★ ・健康長寿（コミュニティ活動・働く場・医療）○ ・病院があり、安心な生活ができる○ ・健康で暮らせる○ ・地域包括ケアシステム○ ・病院がある○ ・健康・健全な暮らし○★ ・町内に森町病院があること○
子育て・教育	・子どもが多い町（安全・楽しい・サポート多）★ ・熱中できることがある○★ ・子どもを安心して預けて仕事ができる環境（保育園の充実）★ ・子どもにとって選択肢がたくさんある暮らし★
自然環境、歴史文化、地域資源、情報発信	・自然がたくさん、自然で遊べる○ ・祭りや森町の景色、特産物が取り上げられると嬉しいし、もっと盛り上げたいと思う○ ・町づくりや地域おこしで町外の人に森町を広く知ってもらおうこと（森町に来てもらう）★ ・豊かな自然の景色○ ・伝統を守る○ ・豊かな自然と歴史文化○ ・気軽に自然に触れられる○ ・森町が大好きという気持ち○ ・森町が好きという想い○
その他	・町の財力★

(★：現状の森町になく、今後こうなったらいいなと思うこと
○：既に森町にあり、今後もあり続けてほしいと思うこと)





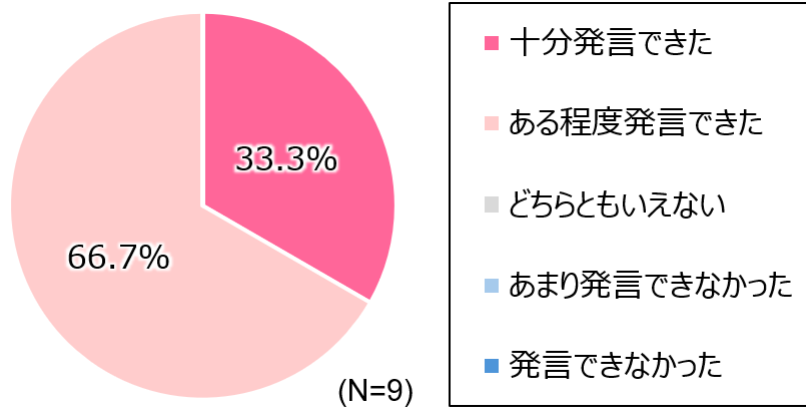
(4) 実施状況写真



(5) 参加者アンケート

a) 自分の意見を十分に発言できたか

問1	「森町まちづくり検討会」ではご自分の意見を十分にご発言出来ましたか。	回答数	回答割合 (%)
選択肢	1 十分発言できた	3	33.3%
	2 ある程度発言できた	6	66.7%
	3 どちらともいえない	0	0.0%
	4 あまり発言できなかった	0	0.0%
	5 発言できなかった	0	0.0%
	0 不明・無回答	0	0.0%
合計		9	100.0%



1.5. 第3回まちづくり検討会

1.5.1. 実施方法

(1) プログラム

時 間	内 容
19:00 ～ 19:01	開会
19:01 ～ 19:10	1.第2回まちづくり検討会の振り返り
19:10 ～ 19:20	2.第10次森町総合計画基本構想（骨子案）
19:20 ～ 19:25	3.本日のまちづくり検討会の進め方
19:25 ～ 19:35	4.話し合い
19:35 ～ 20:50	グループ発表
20:50	閉会（アンケート記入のお願い）

(2) グループワークの進め方

テーマ：森町ならではの「幸せな暮らし」を実現するための強みと課題を見つけよう

a) 話し合いの進め方

- ① 自分の意見を出す：各自の考えを付箋に記入。1枚の付箋に意見は1つ。何枚書いてもよい。
- ② グループの意見を共有する：順番に一人ずつ模造紙に付箋を貼りながら、簡単に読み上げる。
- ③ さらに意見を出す：メンバーの意見を聞いて、追加の意見があれば、順番に付箋を模造紙に貼る。
- ④ 意見を分類する：共通する意見の付箋を近づけながら意見を分類し、見出しをつける。

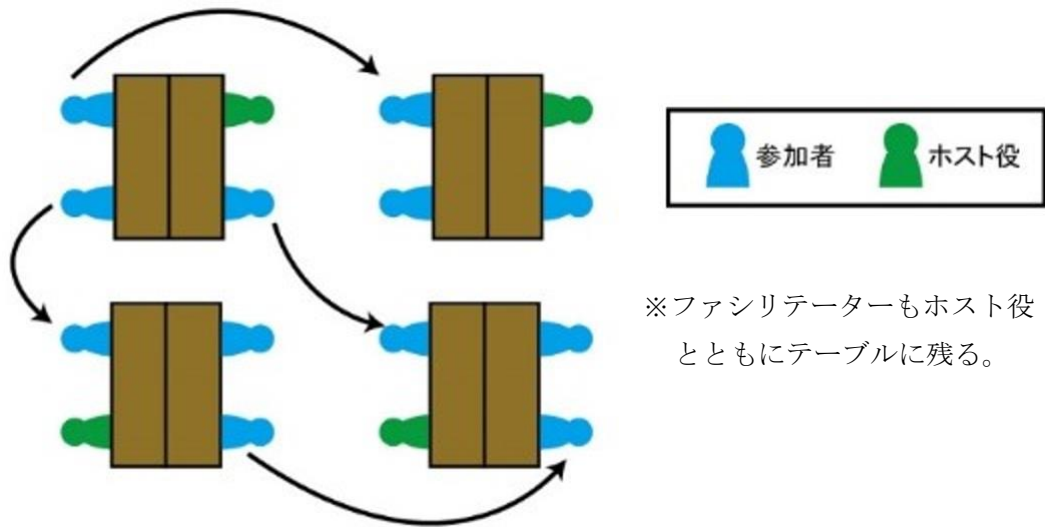
b) ワールドカフェ方式

ワークショップの手法の一つである「ワールドカフェ」方式で進める。

- ① カフェのようなリラックスした雰囲気の中、4～5人の少人数のテーブルでテーマに沿って自由に話し合う。
- ② 各テーブルに残る人（ホスト役）を1人決めて、残りのメンバーは他のテーブルへばらけて移動する。
- ③ ホスト役は新たなメンバーを出迎え、直前のテーマで話し合った内容を共有する。メンバーとともに、新たなテーマについて話し合う。

【席替えのイメージ】

メンバーをシャッフルすることで、他のテーブルの意見を共有でき、短時間で密度の濃い話し合いができる。



1.5.2. 実施記録

(1) テーマ

森町ならではの「幸せな暮らし」を実現するための強みと課題を見つけよう

グループによって、異なる「幸せな暮らしの視点」について話し合いを行った。

A グループ：医療・福祉・防災がそろい、誰もが安心して過ごせる暮らし

＜健康・福祉・医療／安心・安全＞

B グループ：子育てしやすく、子どもも大人もみんな笑顔になれる暮らし

＜子育て・教育＞

C グループ：自然と文化、誇りを次世代につないでいく暮らし

＜自然・環境／文化／観光・交流・発信＞

D グループ：働く・住まう・楽しむが無理なく実現できる暮らし

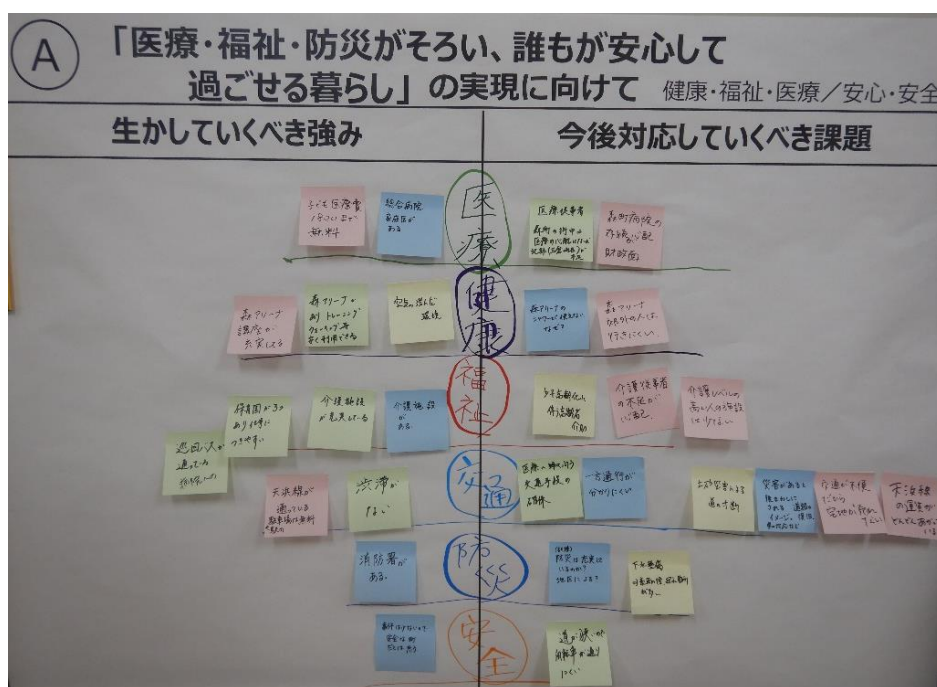
＜産業振興＞

(2) 各グループの成果

a) A グループ

■ 模造紙の内容

分 類	生かしていくべき強み	今後対応していくべき課題
医療	- 子ども医療費 18 歳まで無料 - 森町病院がある、家庭医がある	- 医療従事者。森町の街中は医療の心配はないが、北部（三倉地区）が不安 - 森町病院の存続が心配（財政面）
健康	- 森アリーナでの講座が充実している - 森アリーナがあり、トレーニング・ウォーキング等安く利用できる - 空気の澄んだ環境	- 森アリーナのシャワーが使えない。 - 森アリーナ郊外の人、行きにくい
防災	消防署がある	- 防災（訓練）は充実しているのか？ - 下水整備。豪雨の冠水箇所が多い
安全	事件は少ないので、安全な町だと思う	道が狭いので、自転車が通りにくい
福祉	- 保育園が 3 つあり、仕事に就きやすい - 介護施設が充実している - 介護施設がある - 病院への巡回バス（森町病院患者バス）が通っている	- 少子高齢化に伴う高齢者の介助 - 介護事業者の不足が心配 - 介護レベルの高い人の施設は少ない
交通	- 天浜線が通っている。駅の駐車場が無料 - 渋滞がない	- 災害があると、後回しにされるイメージ。道路の復旧、県の対応など（防災） - 土砂災害による道の寸断（防災） - 天浜線の運賃がどんどんあがっている - 交通が不便だから、宅地が売れない - 医療施設へ向かう交通手段の確保 - 一方通行が分かりにくい



■ グループ発表

① 医療

- 強みは、子どもの医療費が18歳まで無料であることや、総合病院・家庭医が整っている点である。
- 一方で、山間部での医療従事者不足や、森町病院の財政面での存続への不安が課題。

② 健康

- 空気の良さや、森アリーナを利用した低コストでの運動環境や講座の充実が強み。
- 課題としては、シャワー設備が使えないことや、郊外からのアクセスの悪さ。

③ 福祉

- 人口規模に対して、介護施設や保育園が比較的充実している点が評価された。
- 一方で、今後の高齢化に伴う人材不足の懸念や、利用者のニーズに合った施設が不足し、町外施設を利用するケースがあることが課題となっている。

④ 交通

- 渋滞が少ないことや、天浜線の駐車場無料などは利点。
- しかし、医療機関への交通手段の不足、一方通行の多さによる分かりにくさ、さらに山間部での災害時の交通寸断リスクが課題。
- また、交通の不便さが宅地利用や定住に影響している可能性や、天浜線の運賃上昇への懸念がある。

⑤ 防災

- 町の規模に対して消防体制が整っている点は安心材料である。
- 一方で、防災訓練の実施状況に地域差があることや、豪雨時の冠水・浸水被害への対応（下水整備）が課題。

⑥ 安全

- 全体として犯罪や事故が少なく安心な地域である点が強み。
- 一方で、道幅が狭く自転車が通行しにくいなど、生活道路の安全性向上が課題。

まとめ

- 森町は、医療・福祉・安全性の基盤が整っている一方で、交通・施設設備・人材不足といった課題があり、今後は地域間格差の解消やインフラ整備、利便性向上が「幸せな暮らし」の実現に向けた重要なポイントとなる。

b) B グループ

■ 模造紙の内容

分 類	生かしていくべき強み
地域とのつながり	・ 小学校・中学校の学年の境がない ・ 子どもたちのあいさつが活発である ・ 近所の人を頼れる
自然がいっぱい	・ 川遊びができる ・ 自然の中で教える事が多い
スポーツが充実	・ 野球クラブがある ・ 自転車好き（マウンテンバイクなど）が多い
施設がある	・ 児童館が町外からも人気 ・ 図書館が利用しやすい ・ 障がい児教育へ力を入れている ・ 保育園が多い ・ 待機児童ゼロを維持
分 類	今後対応していくべき課題
子ども達への制度	・ 給食費ゼロになったらよい ・ ママの働き口が町内に沢山あるとよい ・ 高校生の通学手当が支給されたらよい ・ 子育て世帯（母親）の選べる仕事が少ない（肉体労働以外）
森町あるある	・ 町内会との関わり方が難しい ・ 町内会費が高い ・ 祭りの温度差。祭りに対して思い入れが強い人と弱い人がいる
遊べる場所	・ 暑くても寒くても遊べる遊び場 ・ 室内施設がもっとほしい ・ 親子で楽しめる場（ショッピングモール、ファミレスなど）
住宅問題	・ 空き家問題（子どもの安全・安心） ・ 賃貸の一軒家が少ない（ほしい） ・ 農地転用が難しい ・ 家が建てにくい

【提 案】こんなことしてみたい

- ・ 祭りの若い衆を増やす（女性参加者増やす）
- ・ 婚活イベント
- ・ 土地が安いので、年 10 件、抽選で土地プレゼント

② 「子育てしやすく、子どもも大人もみんな笑顔になれる暮らし」の実現に向けて 子育て・教育

生かしていくべき強み	今後対応していくべき課題
<u>地域とのつながり</u> 学年の境がない 子どもたちのあいさつが活発 近所の人を頼れる <u>自然がいっぱい</u> 川遊びができる 自然の中で教える事が多い <u>スポーツが充実</u> 野球クラブがある 自転車好き（マウンテンバイクなど）が多い <u>施設がある</u> 児童館が町外からも人気 図書館が利用しやすい 障がい児教育へ力を入れている 保育園が多い 待機児童ゼロを維持	<u>住宅問題</u> 空き家問題 賃貸の一軒家が少ない（ほしい） 農地転用が難しい 家が建てにくい <u>遊べる場所</u> 暑くても寒くても遊べる遊び場 室内施設がもっとほしい 親子で楽しめる場（ショッピングモール、ファミレスなど） <u>子ども達への制度</u> 給食費ゼロになったらよい ママの働き口が町内に沢山あるとよい 高校生の通学手当が支給されたらよい 子育て世帯（母親）の選べる仕事が少ない（肉体労働以外）

※ 模造紙には上記の項目に加え、「子育てしやすく、子どもも大人もみんな笑顔になれる暮らし」の実現に向けての具体的な施策やアイデアが記入されている。

■ グループ発表

① 強み

- 最大の強みは、地域とのつながりの強さである。近所の人子どもを見守る環境や、子ども同士が学年を超えて仲が良い点、元気に挨拶する文化などがある。
- また、自然環境の豊かさにより川遊びなど体験を通じた学びができることも特徴である。
- さらに、以下の点において総合的に子育て環境の良さが強みとして挙げられた。
 - 野球・サッカーなどのスポーツ環境の充実
 - 自転車（eBike など）への取り組み
 - 児童館や図書館などの子ども向け施設の充実
 - 保育園が多く、待機児童ゼロを維持していること
 - 障がい児教育への配慮

② 課題

主な課題として、以下が挙げられた。

- 住宅問題：農地転用の難しさや空き家増加、一戸建て賃貸の不足
- 地域行事の温度差：祭りへの関わり方に世代間ギャップがある
- 町内会活動の負担：共働き世帯にとって参加が難しい、会費負担への不満
- 遊び場不足：親子で利用できる屋内施設が少ない
- 経済的支援：給食費や通学費（天浜線など）の負担が大きい
- 雇用環境：特に子育て世代（母親）が働きやすい職場や職種の不足

③ 提案

課題を踏まえたアイデアとして、

- 土地の安さを活かした宅地の提供（抽選配布）
- 祭りへの若者・女性参加を促す婚活イベントの活用

など、定住促進や地域活性化につながる施策が挙げられた。

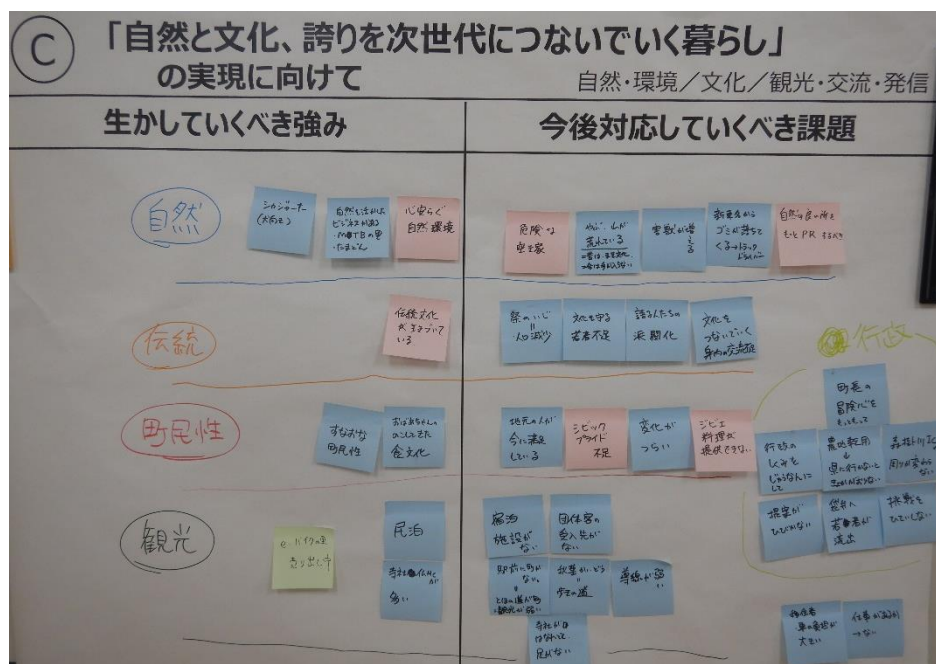
まとめ

- 森町は、人とのつながりと自然環境に恵まれた子育てしやすい地域である一方、住宅、地域参加、経済負担、雇用といった生活面の課題があり、子育て世代の暮らしやすさを総合的に高める仕組みづくりが重要となる。

c) C グループ

■ 模造紙の内容

分 類	生かしていくべき強み	今後対応していくべき課題
自然	・ジビエをいかした鹿ジャーキー（犬猫向き）など ・自然を生かしたビジネスがある（MTB の里・たまどん） ・心安らぐ自然環境	・危険な空き家 ・獣害が増える ・やぶ・山が荒れている。昔は薪文化。今は手が入らない。 ・新東名からゴミが落ちてくる（トラックドライバー） ・自然の良い所をもっと PR すべき
伝統	・伝統文化が息づいている	・文化をつないでいく（身内の交流不足） ・祭りの維持（人口減少） ・文化を守る若者の不足 ・語る人たちの派閥化
町民性	・素直な町民性 ・おばあちゃんの残してきた食文化	・地元の人が今に満足している ・ジビエ料理が提供できない ・シビックプライド不足 ・変化がづらい
観光	・eBike の里（eBike のふるさと森町）売り出し中 ・民泊（秋葉街道の宿場町として発展した過去がある） ・寺社仏閣が多い	・団体客の受け入れ先がない ・神社が離れていて、足がない ・秋葉街道（歩き道） ・導線が弱い（駅と観光地が離れている） ・駅前に町がない。徒歩の道が町。観光が弱い ・民泊施設がない
行政		・森・掛川 IC の周りが変わらない ・町長の冒険心をもっともっと ・行政の仕組みを柔軟にして ・農地転用：県に行かないと許可が下りない ・提案がひびかない ・袋井へ若者が流出 ・挑戦を否定しない
その他		・移住者：車の負担が大きい ・仕事があるか（ない）



■ グループ発表

① 自然

- 森町は豊かな自然と心安らぐ環境が大きな強みであり、ジビエ活用やマウンテンバイク、民泊など観光資源としての可能性も高い。
- 一方で、山林の荒廃や放置による獣害の増加、空き家の増加など、自然を維持する担い手不足が課題となっている。さらに、新東名周辺の不法投棄も環境面の問題となる。

② 伝統文化

- 江戸時代から続く地域ごとの伝統文化や祭りは大きな価値である。
- しかし、人口減少により担い手不足や継承の難しさが深刻化しているほか、交流機会の減少や意見対立により、文化の維持が難しくなっている点が課題。

③ 町民性

- 森町の人々は素直で新しい取り組みを受け入れやすいという魅力がある。
- 一方、現在の生活に満足している人も多く、変化や挑戦に対して慎重・消極的になりやすい傾向がある点が課題。

④ 観光・滞在環境

- 民泊などの取り組みは進んでいるものの、町全体としては宿泊施設や団体向け飲食施設が不足しており、滞在型観光の受け入れ体制に課題がある。
- また、寺社仏閣などの資源は豊富だが、歴史的に形成された町の構造により、現代の観光動線が十分整っていない。

⑤ 行政・制度面

- 農地転用などの制度的制約や調整の難しさにより、新しい取り組みが進みにくい環境がある。
- さらに、町民の「現状維持志向」と相まって、変化を起こしにくい体質が課題。

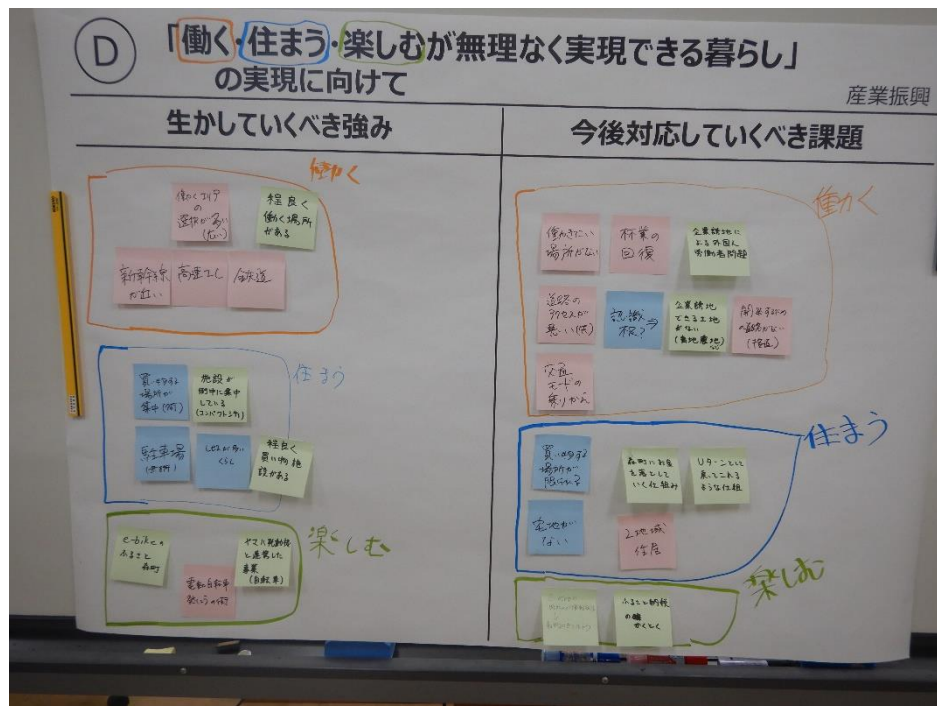
まとめ

- 森町は、豊かな自然と深い歴史文化を有する魅力的な地域である一方、担い手不足、観光受入体制、制度面の制約、変化への慎重さなどが課題となっており、資源を活かしながらか持続的に維持・発展させる仕組みづくりと意識変革が重要であるとまとめられた。

d) D グループ

■ 模造紙の内容

分 類	生かしていくべき強み	今後対応していくべき課題
働く	・新幹線が近い ・鉄道がある ・働くエリアの選択が多い（広い） ・新東名高速道路の IC がある ・働く場所も環境も “ 程良く ” そろっている	・町内に就職先が不足 ・林業の回復、町産材活用 ・企業誘致による外国人労働者問題 ・青地農地の関係で企業誘致できる土地がない ・開発するための道路がない（接道） ・道路のアクセスが悪い ・交通モードの乗り換え
住まう	・自然が多い暮らし ・駐車場が無料 ・施設が街中に集中している（コンパクトシティ） ・自然も便利さも “ 程良く ” そろっている	・買い物する場所が限られている ・森町にお金を落としていく仕組みをつくる（町外で買い物 → 町にお金が落ちない） ・U ターンとして戻ってこれるような仕組みをつくる ・宅地がない ・二地域住居を進める
楽しむ	・eBike のふるさと森町 ・電動自転車発祥のまち ・ヤマハ発動機と連携した事業（自転車）	・eBike の町外への情報発信（森町に来てもらう） ・ふるさと納税の獲得



■ グループ発表

① 自然

- 森町は豊かな自然と心安らぐ環境が大きな強みであり、ジビエ活用やマウンテンバイク、民泊など観光資源としての可能性も高い。

① 働く

- 森町は西部地域の大企業圏に近く、車や新幹線で通勤可能な立地により職業選択の幅が広い点が強み。
- 一方で、以下のような課題がある。
 - 鉄道利用時の乗り換えの不便さ
 - 町内で働く場が少なく、若者の就職先が不足している
 - 企業誘致が農地転用や道路整備の制約で進みにくい
- また、森林が多い地域特性を踏まえ、衰退した林業の再生も重要な課題。

② 住まう

- 強みは、買い物エリアがコンパクトにまとまっており、車で利用しやすい環境や、自然の豊かさである。
- 一方で、以下のような課題がある。
 - 車がないと生活しにくい移動弱者の問題
 - 町外での買い物により地域内消費が流出
 - 住宅用地が確保しにくく、住みやすい場所に宅地開発が進みにくい
- さらに、若者が戻ってくるためのUターン支援などの仕組みづくりが必要。

③ 楽しむ

- 強みとして、eBikeを中心とした取り組みやヤマハ発動機との連携により、楽しみの環境が整いつつある。
- また、森町は働く・住む・楽しむのすべてにおいて、「ほどよいバランス」がある暮らしやすさが特徴。
- 一方で、町外への発信力不足により認知が十分広がっておらず、来訪者やファンの増加につながっていない点が課題である。
- ふるさと納税（eBike など）が強みであることから、外部とのつながりをさらに拡大する必要がある。

まとめ

- 森町は、立地の良さとバランスの取れた暮らしやすさが強みであるが、雇用機会の不足、企業誘致の難しさ、住宅・交通の制約、発信力の弱さといった課題がある。
- 今後は、町内で働ける環境づくり、若者定住の仕組み、地域資源（林業・eBike等）の活用、外部への発信強化を進めることが重要。

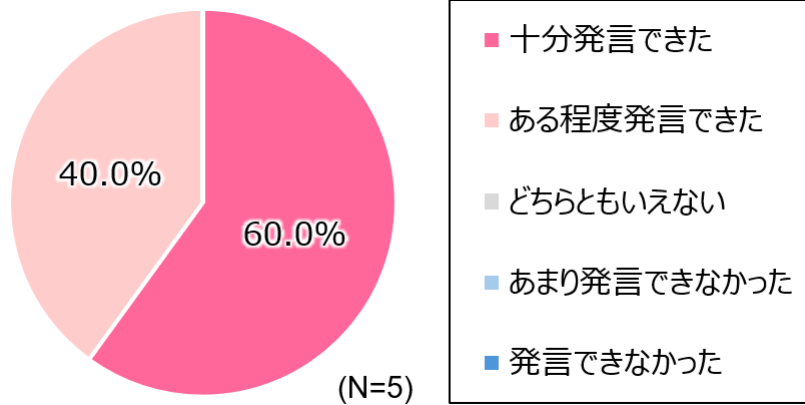
(3) 実施状況写真



(4) 参加者アンケート

a) 自分の意見を十分に発言できたか

問1	「森町まちづくり検討会」ではご自分の意見を十分にご発言出来ましたか。	回答数	回答割合 (%)
選択肢	1 十分発言できた	3	60.0%
	2 ある程度発言できた	2	40.0%
	3 どちらともいえない	0	0.0%
	4 あまり発言できなかった	0	0.0%
	5 発言できなかった	0	0.0%
	0 不明・無回答	0	0.0%
合計		5	100.0%



1.6. 第4回まちづくり検討会

1.6.1. 実施方法

(1) プログラム

時 間	内 容
19:00 ～ 19:01	開会
19:01 ～ 19:10	1.第3回まちづくり検討会の振り返り
19:10 ～ 19:20	2.本日のまちづくり検討会の進め方
19:20 ～ 19:45	3.話し合い
20:50	閉会（アンケート記入のお願い）

(2) グループワークの進め方

テーマ：森町ならではの「幸せな暮らし」を実現するために必要な取組を考えよう

a) 話し合いの進め方

- ① 取組を考える＝付箋に書く：P10のまとめを受けて、この取組が必要だ、こんな取組ができればいいな、というアイデアを考える。
- ② 取組を行う主体を考える＝付箋を移動する：私たち（地域）主体？行政主体？誰が主体的に取り組むかを考える。
※行政に偏った場合は、①に戻って、自分たちでできそうな取組も考える。
- ③ すぐにできそうか、時間がかかりそうか、という視点で分類する＝付箋を移動する。
- ④ ①～③の作業を通じて、必要な取組を洗い出すところまでを目指す。

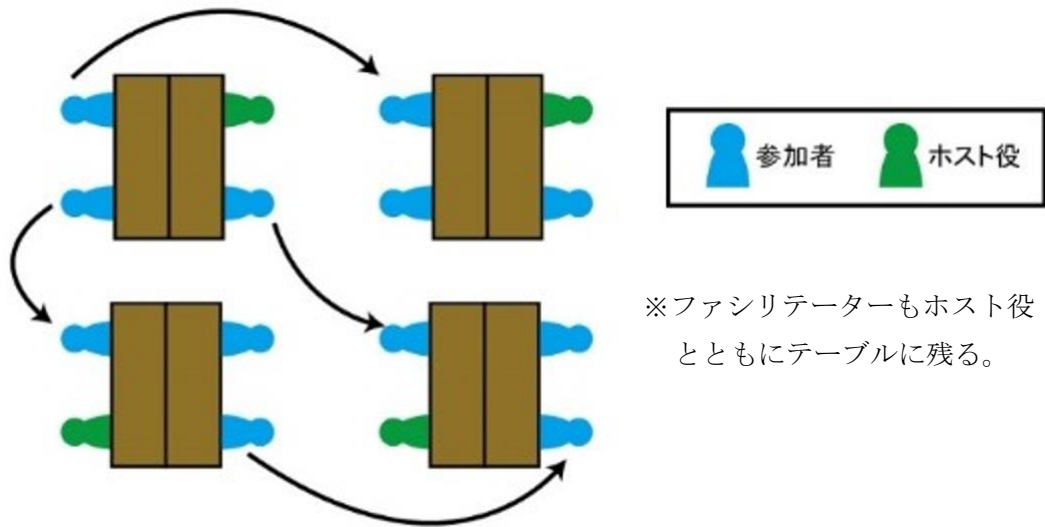
b) ワールドカフェ方式

ワークショップの手法の一つである「ワールドカフェ」方式を進める。

- ① カフェのようなリラックスした雰囲気の中、4～5人の少人数のテーブルでテーマに沿って自由に話し合う。
- ② 各テーブルに残る人（ホスト役）を1人決めて、残りのメンバーは他のテーブルへばらけて移動する。
- ③ ホスト役は新たなメンバーを出迎え、直前のテーマで話し合った内容を共有する。メンバーとともに、新たなテーマについて話し合う。

【席替えのイメージ】

メンバーをシャッフルすることで、他のテーブルの意見を共有でき、短時間で密度の濃い話し合いができる。



1.6.2. 実施記録

(1) テーマ

森町ならではの「幸せな暮らし」を実現するために必要な取組を考えよう

グループによって、異なる「幸せな暮らしの視点」について話し合いを行った。

A グループ：医療・福祉・防災がそろい、誰もが安心して過ごせる暮らし

＜健康・福祉・医療／安心・安全＞

B グループ：子育てしやすく、子どもも大人もみんな笑顔になれる暮らし

＜子育て・教育＞

C グループ：自然と文化、誇りを次世代につないでいく暮らし

＜自然・環境／文化／観光・交流・発信＞

D グループ：働く・住まう・楽しむが無理なく実現できる暮らし

＜産業振興＞

(2) 各グループの成果

a) A グループ

■ 模造紙の内容

仮テーマ	「医療・福祉・防災がそろい、誰もが安心して過ごせる暮らし」の実現に向けて
分野	健康・福祉・医療／安心・安全

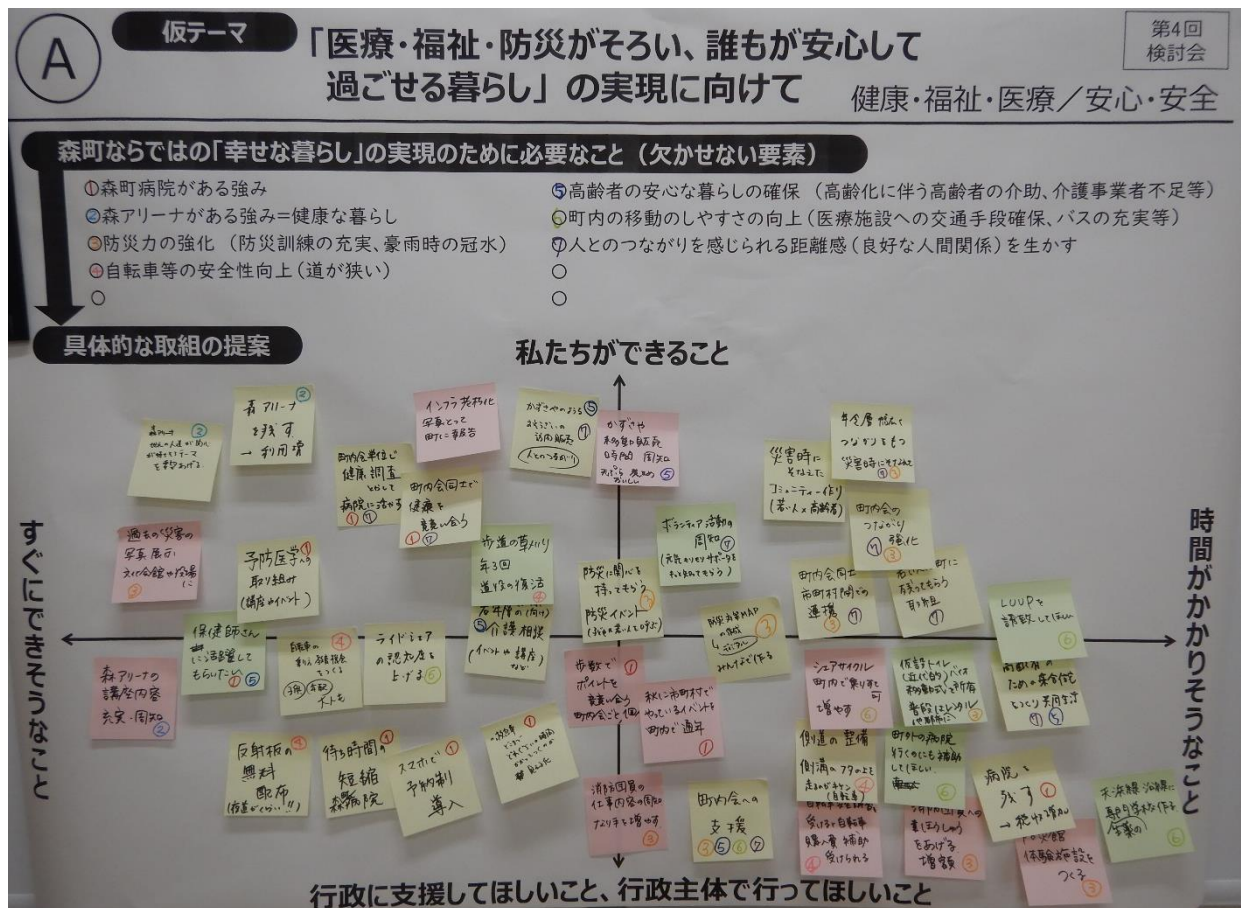
森町ならではの「幸せな暮らし」の実現のために必要なこと（欠かせない要素）

1	森町病院がある強み
2	森アリーナがある強み＝健康な暮らし
3	防災力の強化（防災訓練の充実、豪雨時の冠水）
4	自転車等の安全性向上（道が狭い）
5	高齢者の安心な暮らしの確保（高齢化に伴う高齢者の介助、介護事業者不足等）
6	町内の移動のしやすさの向上（医療施設への交通手段確保、バスの充実等）
7	人とのつながりを感じられる距離感（良好な人間関係）を生かす

具体的な取組の提案

通し番号	付箋の内容	該当する「欠かせない要素」									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	森アリーナ 地元の人たちが関心のあるテーマについて、講座開催の要望をあげる。		●								
2	森アリーナを残す→利用増		●								
3	過去の災害の写真展示。文化会館や役場に			●							
4	予防医学への取り組み（講座やイベント）	●									
5	保健師さんに活躍してもらいたい	●				●					
6	自転車の乗り方教育機会をつくる。子供、年配、大人も				●						
7	ライドシェアの認知度を上げる						●				
8	町内会単位で健康調査とかをして病院に活かす	●						●			
9	インフラ老朽化。写真を撮って町に報告										
10	町内会同士で健康を競い合う	●						●			
11	歩道の草刈りを年3回。道役の復活				●						
12	若年層（40～50代向け）の介護相談（イベントや講座など）					●					
13	かつさやのようなお惣菜の訪問販売。人とのつながり					●		●			
14	かつさや移動販売時間を周知。 天ぷら、煮まめ、おいしい					●					
15	防災に関心を持ってもらう。防災イベント（子どもや若い人を呼ぶ）			●							
16	森アリーナの講座内容の充実、周知		●								
17	反射板の無料配布（夜道が暗い!!）				●						
18	森町病院の待ち時間の短縮	●									
19	スマホで予約制導入	●									
20	救急車がどこまで、どれぐらいの時間かかって着くのか、見える化する	●									
21	歩数でポイントを競い合う 町内会ごと、個人 （秋に市町村単位で実施しているイベントを、町内で通年実施する）	●									
22	消防団員の仕事内容の周知。なり手を増やす			●							
23	ボランティア活動の周知（元気もりサポーターをもっと知ってもらう）							●			
24	防災対策MAPの作成→デジタル。みんなで作る			●							
25	災害時にそなえたコミュニティ作り（若い人×高齢者）										
26	町内会同士、市町村間での連携			●				●			
27	年齢層幅広く、つながりをもつ災害時にそなえて			●				●			
28	町内会のつながり強化			●				●			

通し番号	付箋の内容	該当する「欠かせない要素」									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
29	若い人に町に残ってもらう取り組み							●			
30	LUUPを誘致してほしい						●				
31	町内会への支援			●		●	●	●			
32	シェアサイクルを町内で乗り捨て可、又は増やす						●				
33	側道の整備。側溝のフタの上を走るのが危険（自転車）				●						
34	自転車安全講習を受けると、自転車購入費・補助を受けられる				●						
35	仮設バイオトイレ（近代的）移動式を所有。普段は他都市にレンタルに出す			●							
36	町外の病院行くのにも補助してほしい						●				
37	消防団員への報酬を上げる（増額）			●							
38	高齢者のための集合住宅をつくり、共同生活					●		●			
39	病院を残す→税収増加	●									
40	防災館（体験施設）をつくる			●							
41	天浜線沿線に専門学校（生薬等）を作る						●				



b) B グループ

■ 模造紙の内容

仮テーマ	「子育てしやすく、子どもも大人もみんな笑顔になれる暮らし」の実現に向けて
分野	子育て・教育

森町ならではの「幸せな暮らし」の実現のために必要なこと（欠かせない要素）

1	子育てに適した環境を生かす（自然がいっぱい、スポーツや施設が充実、土地が安い）
2	子育て制度の充実（給食費、高校生通学手当、子育て世帯（母親）の雇用充実）
3	遊べる場所、屋内施設の充実
4	住宅問題への対応（空き家、賃貸不足）
5	若い世代の結婚や移住支援（婚活イベント、抽選で土地提供）
6	人とのつながりを感じられる距離感（良好な人間関係）を生かす

具体的な取組の提案

通し番号	付箋の内容	該当する「欠かせない要素」									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	現状の足を知る										
2	参加者の地元の人 少ない。移住者多い→「困っていない。足りないと思っていない」										
3	情報を自分達で集める・知る										
4	森町の子育てが良いことを周りに言う	●									
5	町外に情報を発信	●									
6	住みながら通える高校が多いのは良い		●								
7	公民館の利用		●								
8	子供会	●									
9	そういう所に「住みたい」と子育て世代集まる	●									
10	2Fに仕事場、1Fに自前保育 子育てと仕事を両立できる場所		●								
11	婚活イベントは男女共に町外からも受け入れてほしい					●					
12	人口増加のための婿取り・嫁取りイベント。今は嫁イベントになっているので。					●					
13	3本立て ①婿取りイベント ②嫁取りイベント ③森同 士イベント					●					
14	高校通学手当		●								
15	町内に家を建てる人に補助金→二世帯はさらに補助し てあげる				●						
16	住宅のリノベーション（空き家）				●						
17	景観保全 子育て×町の景観（空き家対策） 費用はクラファン				●						
18	町の景観良い、のに守るために（空き家になって、傷んで しまうのは、もったいない）				●						
19	給食無償化		●								
20	核家族化、3世代化にするには、婿取り（Uターン）実 現しやすいはず	●									
21	Uターン・嫁ターン					●					
22	一軒家の賃貸少ない				●						
23	結婚祝金制度の創設					●					
24	祝い金の代わりに20年出ていかない制度（ロックをかける）					●					

B

仮テーマ

「子育てしやすく、子どもも大人もみんな笑顔になれる暮らし」の実現に向けて

第4回
検討会

子育て・教育

森町ならではの「幸せな暮らし」の実現のために必要なこと（欠かせない要素）

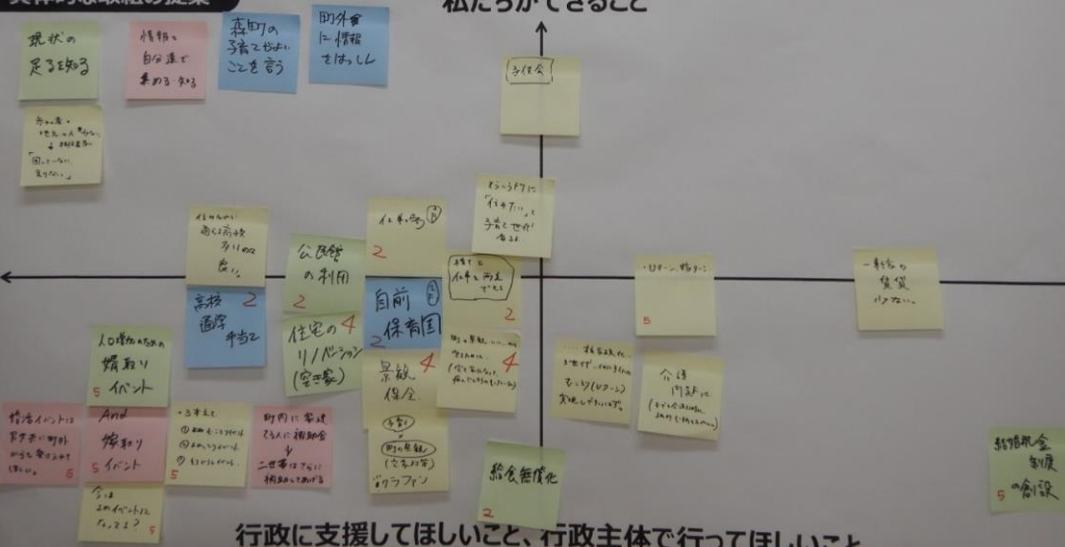
- ①子育てに適した環境を生かす（自然がいっぱい、スポーツや施設が充実、土地が安い）
- ②子育て制度の充実（給食費、高校生通学手当て、子育て世帯（母親）の雇用充実）
- ③遊べる場所、屋内施設の充実
- ④住宅問題への対応（空き家、賃貸不足）
- ⑤若い世代の結婚や移住支援（婚活イベント、抽選で土地提供）
- ⑥人とのつながりを感じられる距離感（良好な人間関係）を生かす

具体的な取組の提案

私たちができること

すべてにできること

時間がかかりそうなこと



行政に支援してほしいこと、行政主体で行ってほしいこと

c) C グループ

■ 模造紙の内容

仮テーマ	「自然と文化、誇りを次世代につないでいく暮らし」の実現に向けて
分野	自然・環境/文化/観光・交流・発信

森町ならではの「幸せな暮らし」の実現のために必要なこと（欠かせない要素）

1	自然、伝統を生かして観光振興（体験型観光、ジビエ、マウンテンバイク、民泊等）
2	食文化、美味しい食べ物、豊富な和菓子、特産品を生かす（とうもろこし、お茶等）
3	山の荒廃、獣害の増加への対応
4	祭りなどの伝統文化の継承（文化を守る若者の確保、語る人の派閥化への対応）
5	新東名周辺のごみの不法投棄の解消
6	人とのつながりを感じられる距離感（良好な人間関係）を生かす

具体的な取組の提案

通し番号	付箋の内容	該当する「欠かせない要素」									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	害獣の利活用（食べたり、毛皮とか）			●							
2	地域の活動を広く知ってもらう				●						
3	ハンター体験（猟師）の推進→食べる	●	●								
4	民宿を増やす（お寺、空き家利用）	●									
5	心機一転、アクティ森の活性化	●									
6	スイーツなどに特化したMAPづくり	●									
7	防災の炊き出しの体験（町内会単位）						●				
8	とうもろこしの収穫体験	●	●								
9	食べる森林（オーナー制度を作る）	●	●								
10	体験観光（山菜採り）	●	●								
11	自転車スタンドがあることの周知や使い方の周知（町提供スタンド）	●	●								
12	回覧板をWebで見れる仕組みづくり						●				
13	祭りの活動を学校の中でやる				●						
14	大会をやる（自転車の）	●		●							
15	大会を4月の山桜が咲くころにやる	●		●							
16	エミュー牧場の認知度UP	●	●								
17	古道の歴史深堀（観光ルート化）	●		●							
18	YouTubeに頼んで宣伝（祭り）				●						
19	空き家リノベーション→民宿、お店	●									
20	空き家を利用したシェアハウス（短期、長期に問わず）	●					●				
21	天方小の利用をする（宿泊施設）	●									
22	山の中をマウンテンバイクで走れる道を増やして欲しい（山の活用方法）	●		●							
23	サービスエリアで伝統のPR				●						
24	NEXCOにゴミを対応してもらう					●					
25	自転車専用道路を作る	●									
26	町並みの維持	●			●						

d) D グループ

■ 模造紙の内容

仮テーマ	「働く・住まう・楽しむが無理なく実現できる暮らし」の実現に向けて
分野	産業振興

森町ならではの「幸せな暮らし」の実現のために必要なこと（欠かせない要素）

1	広域アクセスが良い＝働くエリアが広い
2	「eBikeのふるさと」「自転車のまち」の普及（町外から人を呼び込む）
3	企業誘致、町内の就職先不足の解消（若者流出防止）
4	林業の再生と町産材活用
5	町内消費を促す仕組みづくり（買い物する場所は程よくあるが、町内でお金落ちる仕組みが必要）
6	人とのつながりを感じられる距離感（良好な人間関係）を生かす
7	ふるさと納税
8	廃校の活用

具体的な取組の提案

通し番号	付箋の内容	該当する「欠かせない要素」									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	企業誘致→景観が損なわれる。森町町民憲章に反する→森町の良さ（自然環境）を維持していく取組の推進			●							
2	自転車の街の普及→自転車専用道路、サイクリングロードをつくる		●								
3	ロケ地の誘致					●					
4	廃校活用→スペース貸し、研修、事業サービス								●		
5	ファクトリーツアー、工場見学（ebikeのスポット、お茶、スイーツセット）		●	●							
6	SBSのそこ知り!! で森町特集をやってもらう					●					
7	周遊MAPをつくる					●					
8	広域アクセス→プロモーションで、若者の働き方事例をきれいに発信	●									
9	森町の良さをもっとプロモーションする	●									
10	林業体験で森町の木材を知ってもらう				●						
11	物価高騰対策としてプレミアム商品券					●					
12	森町クーポン（商品券）の発行					●					
13	森町の木を使って役場のリノベーション				●						
14	コワーキングスペースを作る→空き家の活用			●							
15	毎年秋にやっている、ウォーキングツアーを春にもやる					●					
16	お茶屋さん×お菓子屋さんのスタンプラリー					●					
17	おもしろい顔はめパネルをたくさんつくる					●					
18	写真映えスポット					●					
19	ebikeを自由に乗り降りできる駅（場所） ebike駅		●								
20	ふるさと納税を利用した植樹→林業への財政投資				●						
21	宿泊できる場所（ホテル誘致）					●					
22	費用対効果のあるかわいいキャラクターがいれば、お金をうみだせる							●			
23	有吉の壁に来て欲しい（森をつかって）					●					
24	新町の一方通行（長坂ある通り）、逆走が多いので看板を分かりやすくしてほしい。「一方通行だにい〜」みたいに、方言を交えたおもしろ看板										
25	森ことばラジオ体操第2バージョンをつくってほしい						●				
26	天浜線で自転車専用車両を走らせてほしい		●								
27	企業誘致→行政による法規制の先行対応			●							

D

仮テーマ

「働く・住もう・楽しむが無理なく実現できる暮らし」 の実現に向けて

第4回
検討会

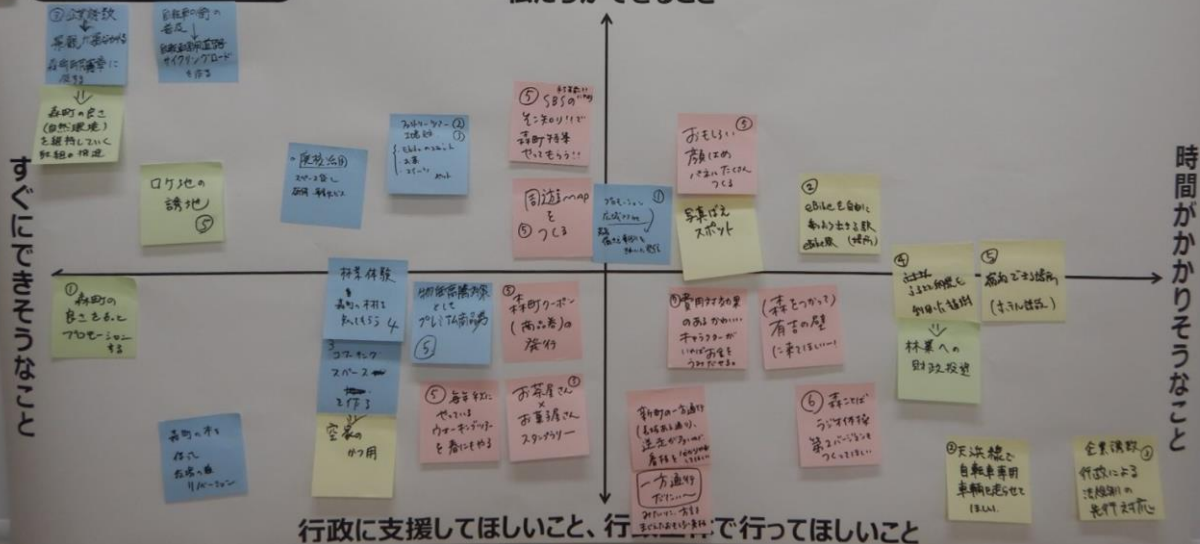
産業振興

森町ならではの「幸せな暮らし」の実現のために必要なこと（欠かせない要素）

- ① 広域アクセスが良い＝働くエリアが広い
- ② 「eBikeのふるさと」「自転車のまち」の普及（町外から人を呼び込む）
- ③ 企業誘致、町内の就職先不足の解消（若者流出防止）
- ④ 林業の再生と町産材活用
- ⑤ 学校の活用
- ⑥ 町内消費を促す仕組みづくり（買い物する場所は程よくあるが、町内でお金が落ちる仕組みが必要）
- ⑦ 人とのつながりを感じられる距離感（良好な人間関係）を生かす
- ⑧ ふるさとのうせい

具体的な取組の提案

私たちができること



行政に支援してほしいこと、行政で行ってほしいこと

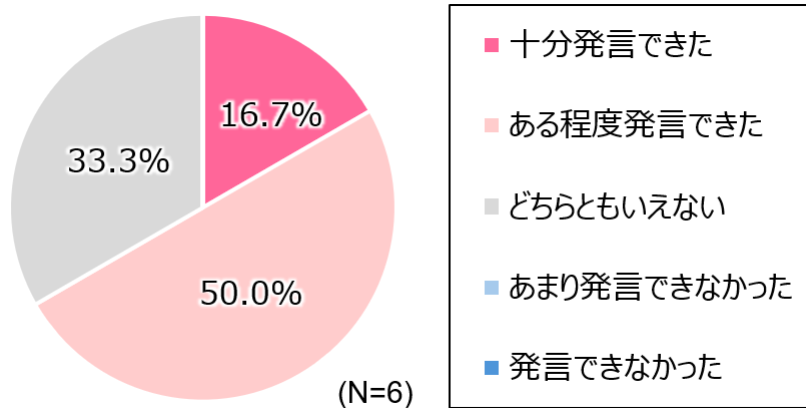
(3) 実施状況写真



(4) 参加者アンケート

a) 自分の意見を十分に発言できたか

問1	「森町まちづくり検討会」ではご自分の意見を十分に 発言出来ましたか。	回答数	回答割合 (%)
選択肢	1 十分発言できた	1	16.7%
	2 ある程度発言できた	3	50.0%
	3 どちらともいえない	2	33.3%
	4 あまり発言できなかった	0	0.0%
	5 発言できなかった	0	0.0%
	0 不明・無回答	0	0.0%
合計		6	100.0%



1.7. 第5回まちづくり検討会

1.7.1. 実施方法

(1) プログラム

時 間	内 容
19 : 00 ～ 19 : 01	開会
19 : 01 ～ 19 : 05	1.本日のまちづくり検討会の進め方
19 : 05 ～ 20 : 10	2.話し合い
20 : 10 ～ 20 : 50	町長、教育長に発表・町長、教育長からの講評
20 : 50	閉会（アンケート記入のお願い）

(2) グループワークの進め方

テーマ：森町ならではの「幸せな暮らし」を実現するために必要な取組を考えよう

- ① 第4回を振り返り、追記・修正や意見の選別をし、清書する。
- ② 他のグループを見学する。
- ③ グループごとに発表の準備をする。

1.7.2. 実施記録

(1) テーマ

森町ならではの「幸せな暮らし」を実現するために必要な取組を考えよう

グループによって、異なる「幸せな暮らしの視点」について話し合いを行った。

A グループ：医療・福祉・防災がそろい、誰もが安心して過ごせる暮らし

＜健康・福祉・医療／安心・安全＞

B グループ：子育てしやすく、子どもも大人もみんな笑顔になれる暮らし

＜子育て・教育＞

C グループ：自然と文化、誇りを次世代につないでいく暮らし

＜自然・環境／文化／観光・交流・発信＞

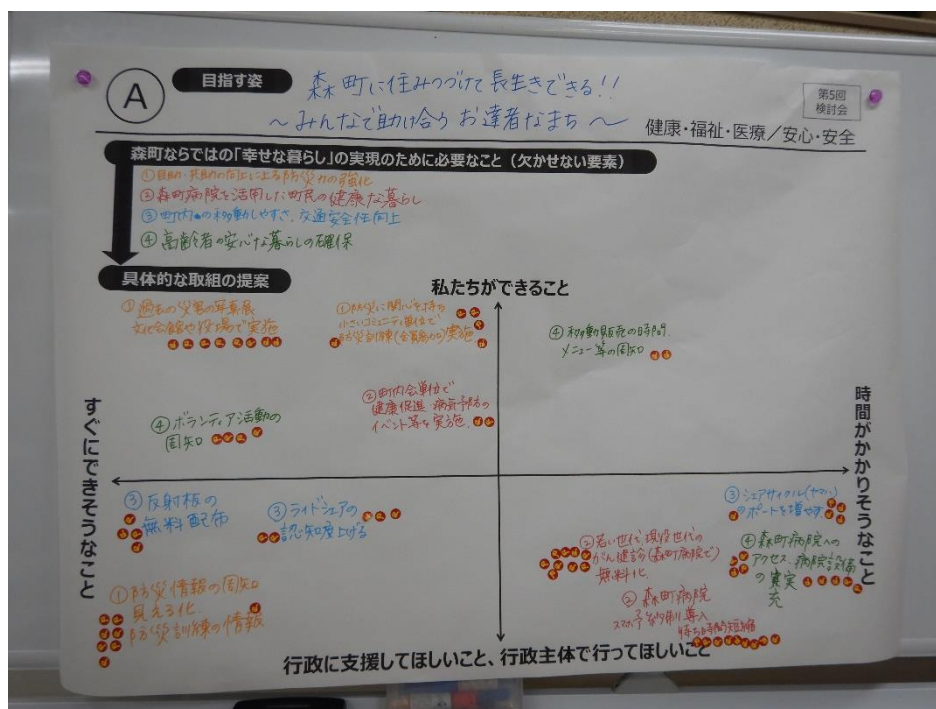
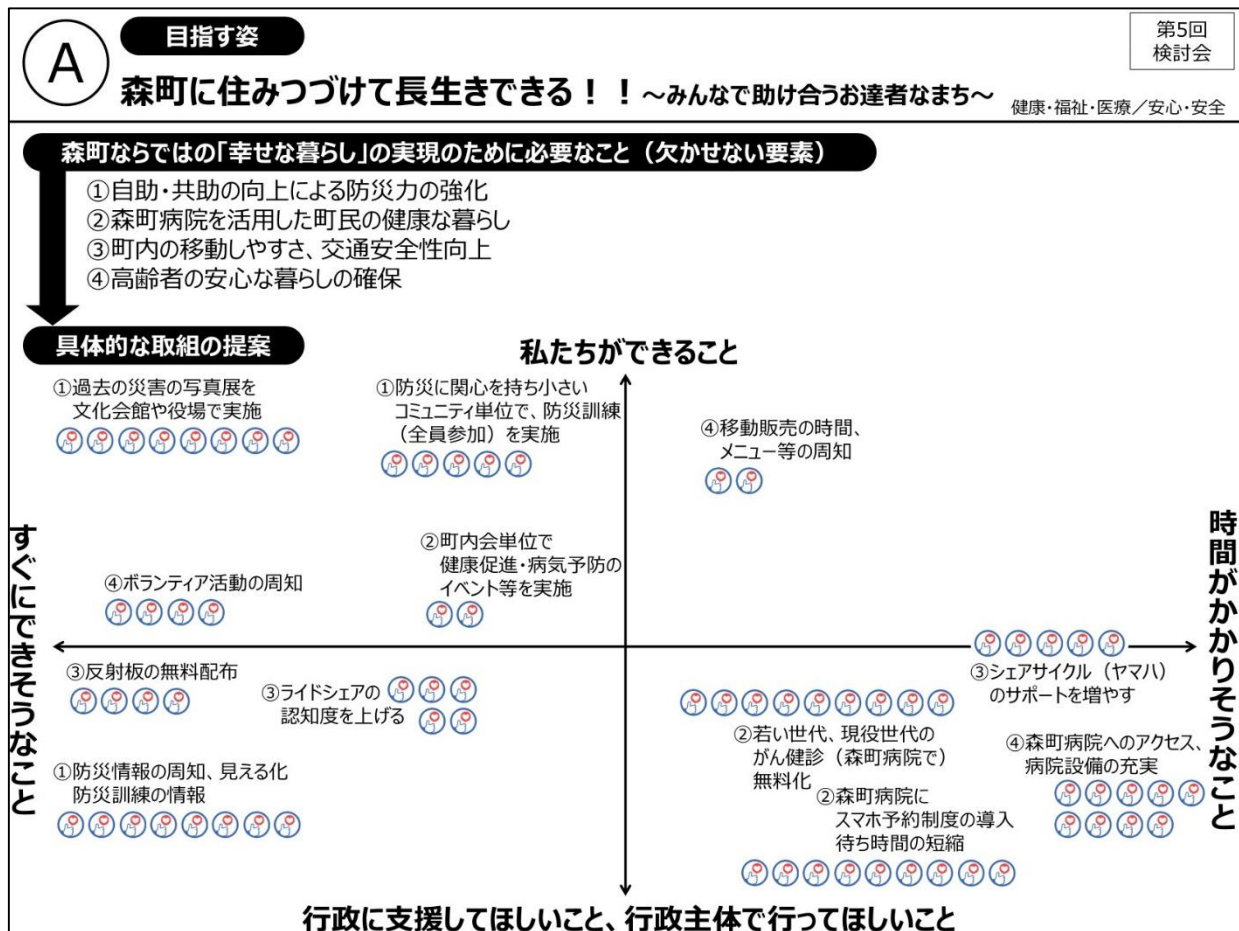
D グループ：働く・住まう・楽しむが無理なく実現できる暮らし

＜産業振興＞

(2) 各グループの成果

a) A グループ

■ 模造紙の内容



■ グループ発表

森町で安心して暮らし続け、健康に長生きできるまちを目指し、防災・医療・交通・高齢者支援の4つの観点から提案が行われた。

① 自助・共助の向上による防災力の強化

- 災害時には「まず自分、次に家族、そして地域」を守る自助・共助が重要であるとの認識から、身近な単位での防災力向上が必要。
具体的には以下の3つが提案された。
 - 組・町内会など小さなコミュニティ単位での防災訓練への全員参加
 - 過去の森町の災害を写真展などで可視化し、防災意識を高める啓発活動
 - 河川や町内の状況を映すライブカメラ等による防災情報の「見える化」
- 山間部と川下では必要な対策が異なるため、地域特性に応じた防災情報や訓練内容の提示を行政から行い、住民が主体的に備えられる仕組みづくり。

② 森町病院を活用した健康な暮らし

- 医療面では、森町病院を中心に町民の健康を支えるため、スマホ予約制度の導入による待ち時間の短縮
- 若い世代は健康意識が薄れがちのため、若い世代・現役世代へのがん検診を無料化して費用面のハードルを下げることで受診率向上
- 町内会単位で、健康づくりや病気予防をテーマにしたイベント・講習会・ポイント制などの“競い合い型”健康促進施策を実施することで、楽しみながら健康意識を高める仕組みづくり

③ 町内の移動しやすさ・交通安全性の向上

- 日常の安心・安全な移動環境づくりとして、以下の3つが提案され、年齢を問わず移動しやすい町を目指す方向性を示した。
 - 反射板などの交通安全グッズの無償配布
 - 車も自転車も使いにくい高齢者向けのライドシェア導入、ライドシェアの認知度向上
 - 将来的には、ヤマハ発動機等と連携したシェアサイクルのステーション整備

④ 高齢者の安心な暮らしの確保

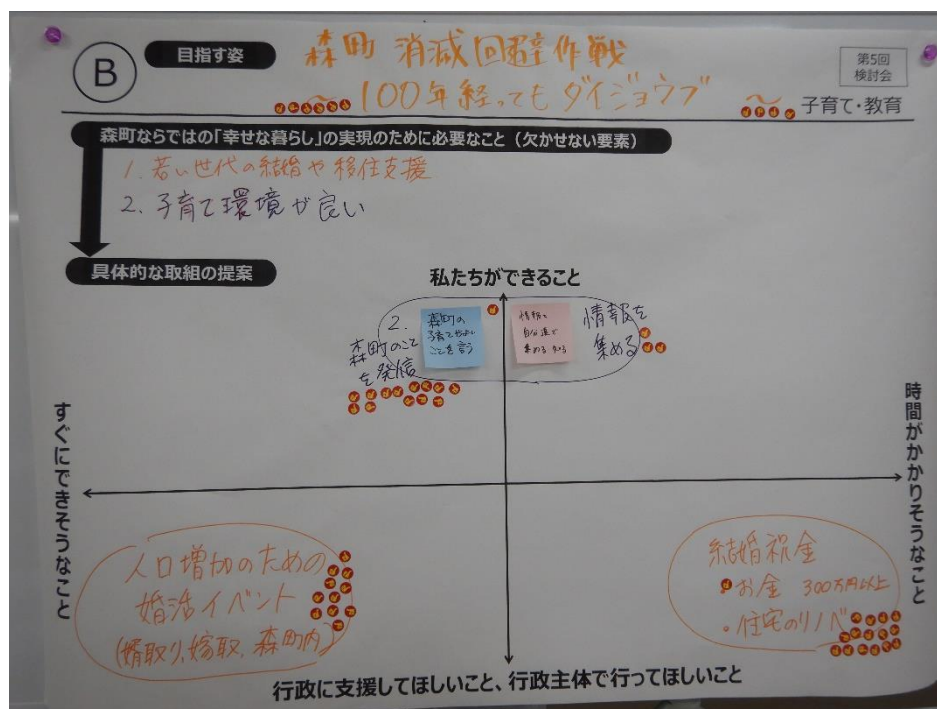
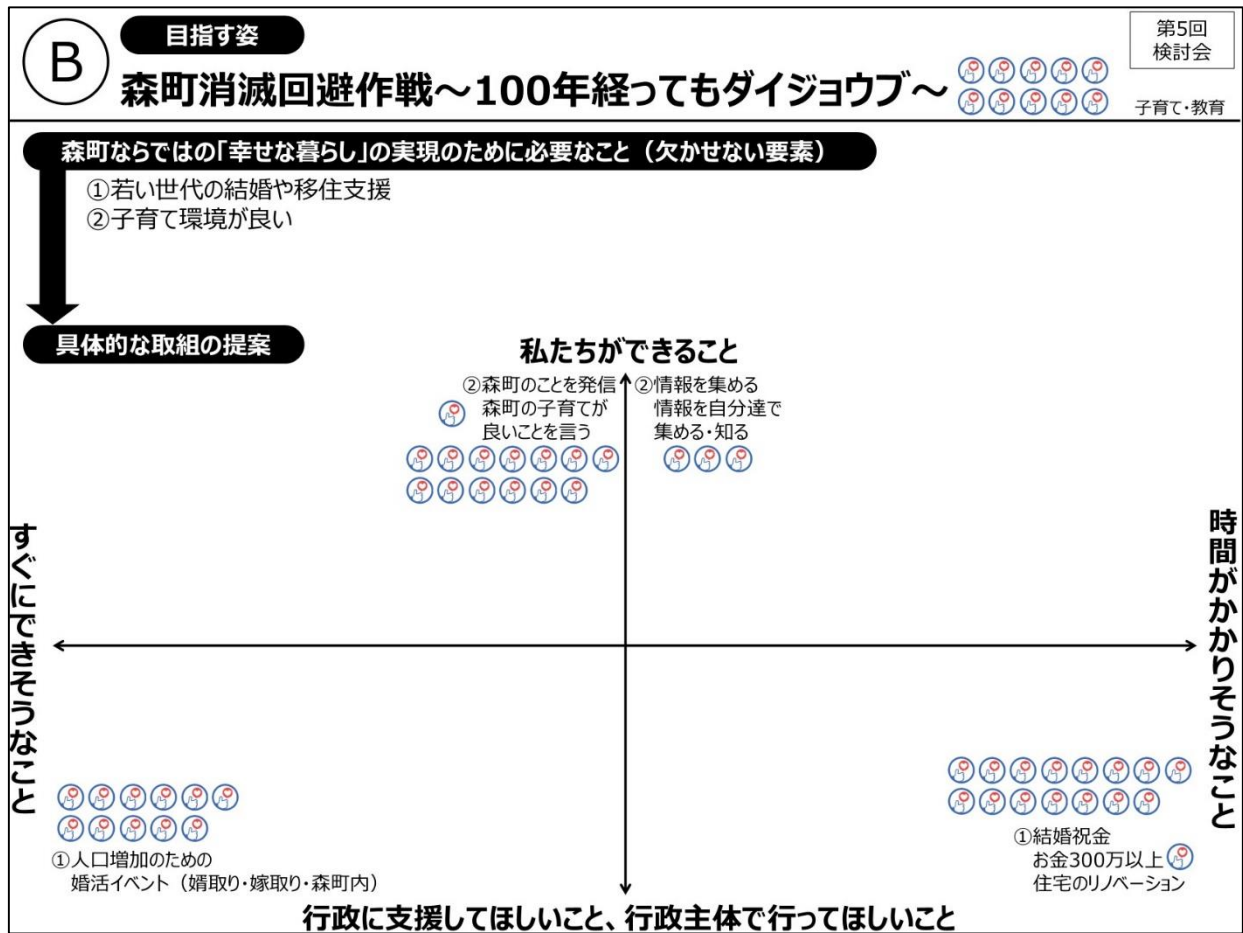
- 森町病院のアクセスや設備面に課題があり、町外の病院を利用するケースもあるため、行政の支援による医療サービスの充実を重点的に進める必要性がある。
- 森町の高齢者は自立心が高く、「お達者度」が高いことが強みであるとされ、その力を活かした支え合いが重要。
具体的には、以下の3つが、住民主体でできることとして示した。
 - ボランティア活動や移動販売の周知
 - 移動販売などを通じた高齢者同士の交流の場づくり
 - 地域内での小さなつながりを広げる取り組み

まとめ

- 防災力の強化、医療と健康づくり、移動の安心、高齢者のつながりを柱に、「自助・共助を活かしながら、誰もが安心して長く暮らせる森町」を実現していくことが、このグループの目指す姿としてまとめられた。

b) B グループ

■ 模造紙の内容



■ グループ発表

「10年先の総合計画」を見据えながら、100年先も森町が存続することに特化し、子育て・教育を「未来世代を生み出す仕組み」から捉え直す提案が行われた。

基本的な考え方

- 現在の子どもへの行政サービスは比較的充実している一方で、今後生まれてくる子どもをどう増やすかが最大の課題である。
- その前提として、「子どもが生まれるためには結婚が必要」であり、さらに結婚・移住を促さなければ、将来的に出生数がゼロになる可能性がある。

① 若い世代の結婚

- 重点施策として、独身層へのアプローチと結婚支援を最重要テーマに設定。
- 現在実施されている婚活イベントについては、「町内男性×町外女性」という嫁取り型に偏らず、町内女性が婿を迎えるケース、町内同士の結婚、町外同士の結婚でも居住地を森町にするケースなど、多様な結婚・定住パターンに対応できる仕組みへ広げていく必要がある。

② 結婚祝金の大幅拡充と定住条件

- 現行の結婚祝金（30万円）を、300～500万円規模に大幅拡充することを提案。
- ただし補助金として、「日本人であること」、「20年間森町に居住すること」を条件とし、途中転出や離婚の場合は年割りで返還する仕組みとすることで、長期定住と人口定着を両立させる。

③ 出産・子育てと空き家対策の連動

- 結婚・定住により子どもが生まれれば、約20年間は森町で暮らす可能性が高く、その過程で、空き家を住居として活用、リノベーション費用を町が補助、森町の大工を活用、を条件化することで、定住促進・空き家対策・地元産業支援を同時に実現できる。

④ 行政と住民の役割分担

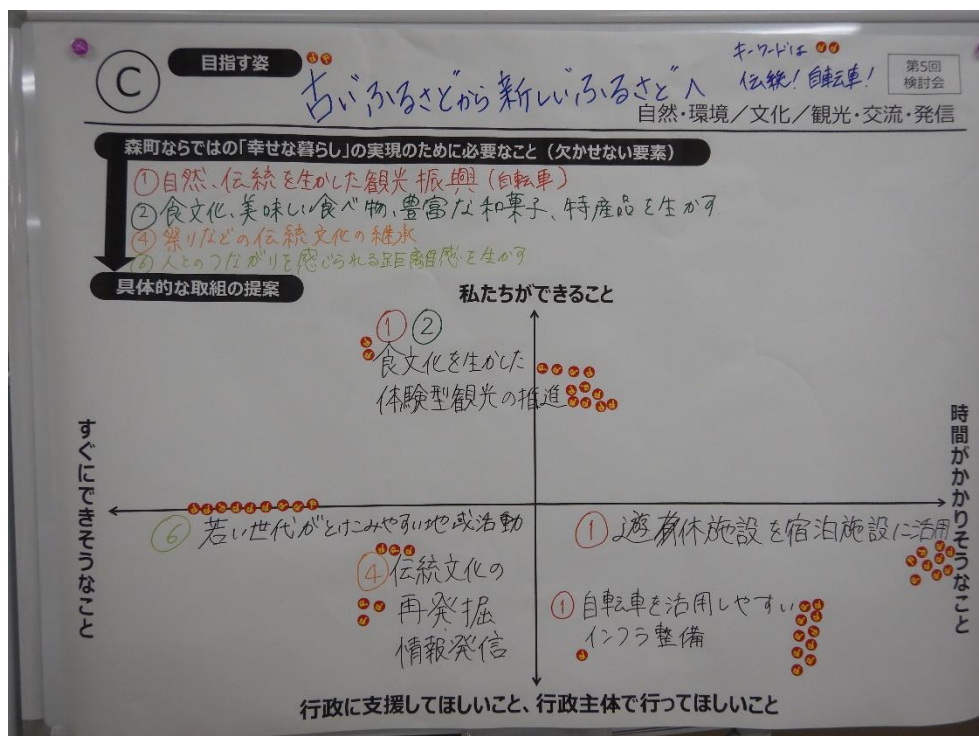
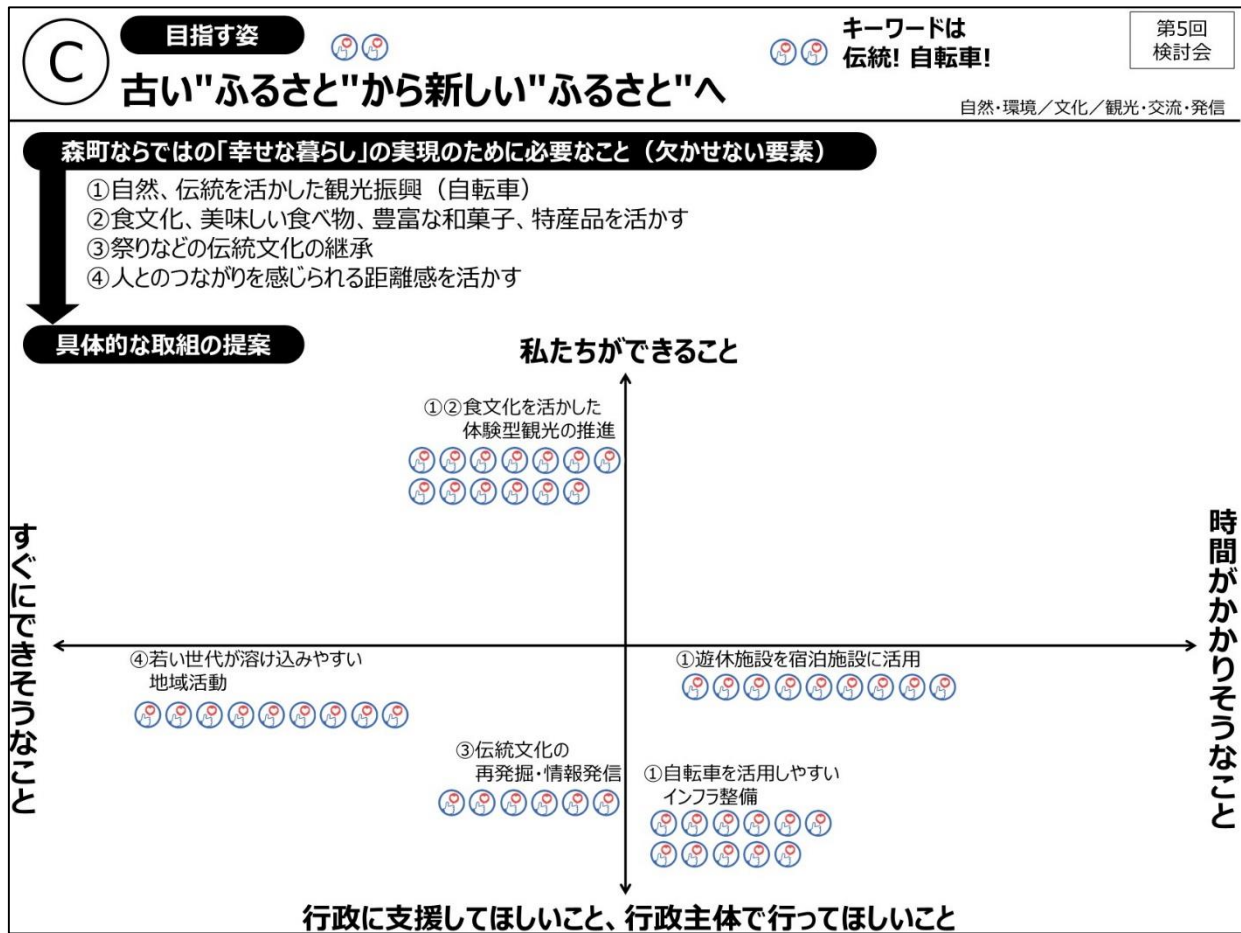
- 結婚や子育ての支援を「行政任せ」にするのではなく、行政：出会いの場づくりと経済的支援、住民：森町の魅力を集め、発信し、つなげる役割、という分担が重要。
- かつての「おせっかいおばさん・おせっかいおじさん」のような、民間による人と人のつながりづくりを現代的に復活させることが、持続可能なまちづくりにつながる。

結論

- 「今いる子ども」ではなく、「これから生まれてくる子ども」→ その前段階の「結婚」に今こそ本気で手を打つことが、森町にとって最後のチャンスとなる。

c) C グループ

■ 模造紙の内容



■ グループ発表

森町の魅力を「昔から大切にしてきたもの」と「新しく生まれている取り組み」の両方を活かしながら発信していくという考え方のもと、「古いふるさとから新しいふるさとへ」を目指す姿とした。

ここでいう「古いふるさと」とは、森町が長年育んできた伝統文化・食文化・祭り・トウモロコシなどの地域資源を指し、「新しいふるさと」とは、eBikeやマウンテンバイクなど近年注目されている取組を意味する。

どちらかを置き換えるのではなく、両方を組み合わせて森町をより魅力的に発信していく。

伝統 × 自転車

- 森町の自然と伝統を活かした観光振興の軸として、自転車（eBike）をインフラ兼コンテンツの中心に据える。
- 町内に点在する多様な観光・文化コンテンツを、自転車をつなぎ、回遊性を高めることが重要。

①②食文化・体験型コンテンツの活用

- 森町の山間部に多い鹿を活用したジビエ文化の発信や、トウモロコシの収穫体験などの体験型観光を進めることで、食と自然の魅力をより深く体感できる。

③伝統文化の発掘・情報発信

- 森町の象徴である祭りなどの伝統文化について、従来の形で継承するだけでなく、YouTubeやSNS、外部のYouTuberなども活用し、新しい視点・見え方で再発掘・発信していくことが必要。
- 若い世代や町外の人にも届く形での伝統文化の発信が重要。

①遊休施設を宿泊施設に活用・滞在型観光の推進

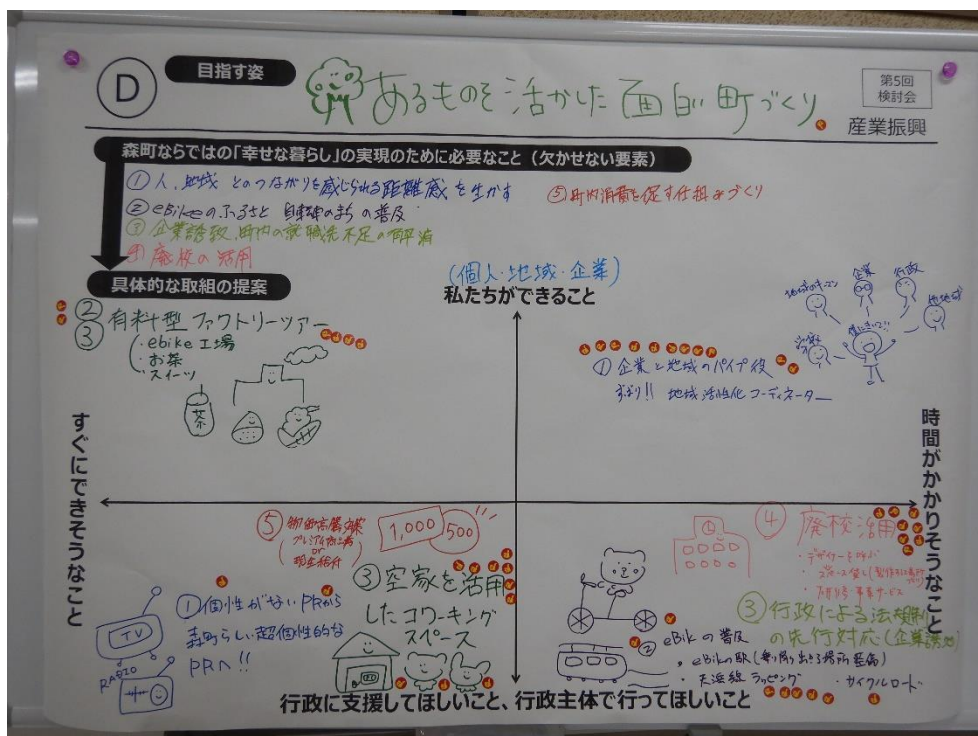
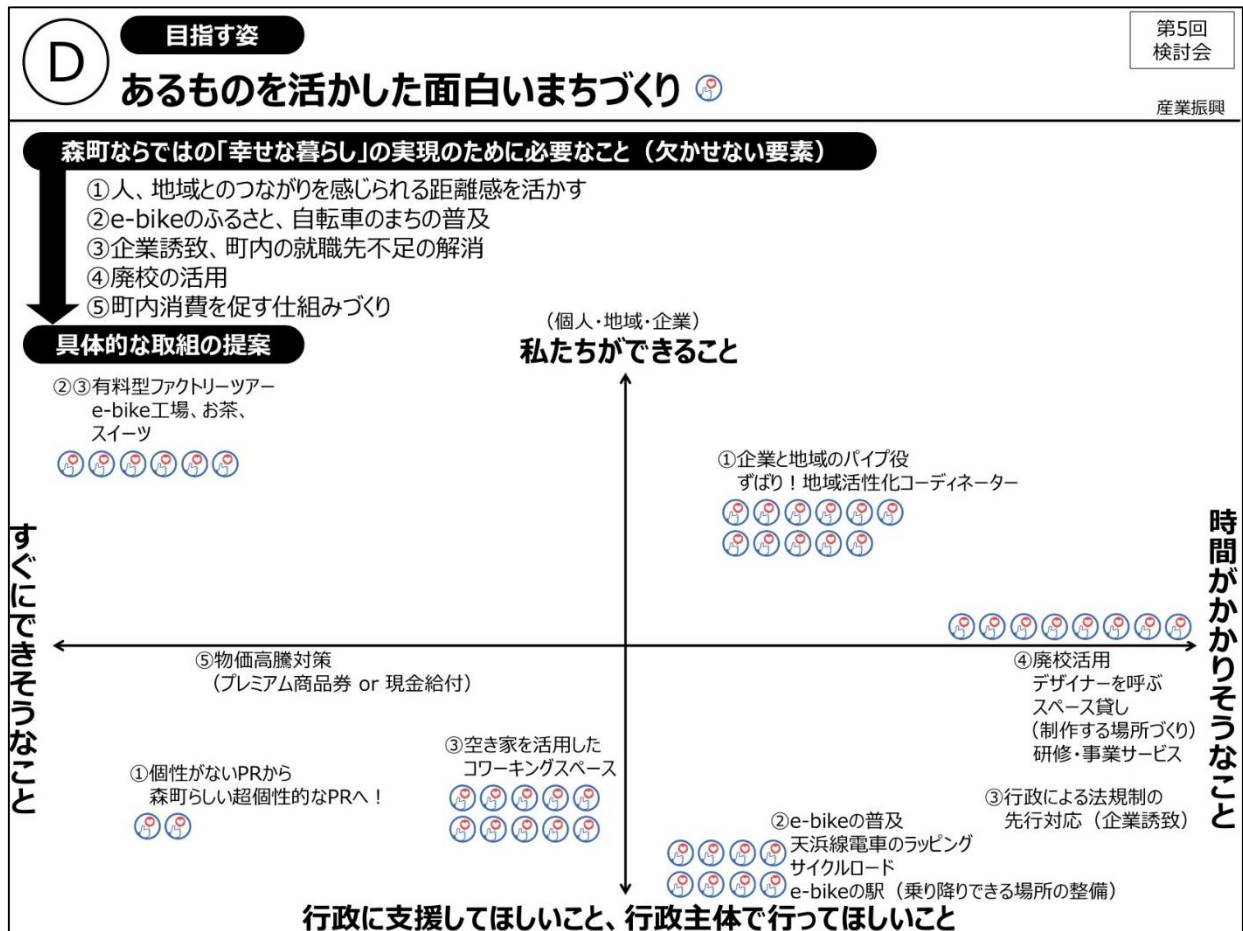
- 来訪者が滞在せずに帰ってしまう課題を踏まえ、遊休施設（天方小学校の廃校舎）や空き家を宿泊施設としてリノベーションし、森町に滞在する人口を増やすことで、地域活性化につなげたい。

④次世代への文化継承

- 観光や発信だけでなく、文化を維持していく担い手づくりも重要とされ、若い世代が地域に溶け込み、地域活動を通じて伝統文化や食文化を受け継いでいける環境づくりを進めることが必要。

d) D グループ

■ 模造紙の内容



■ グループ発表

本発表では、「働く・住まい・楽しさ」のバランスがとれたちょうどいい暮らしを実現するために、森町にすでにある資源を活かした「面白い町づくり」を目指す姿として掲げ、その実現に必要な要素を5つの柱で整理した。

① 人・地域とのつながりを活かす

- 森町は人との距離感が近い一方で、「何かやりたいときにどこに相談すればよいかわからない」という課題がある。
- そこで、住民・行政・企業をつなぐ地域活性化コーディネーターのようなパイプ役が必要。
- また、現在の PR は正統派で差別化が弱いいため、森町らしい個性を活かした発信への転換が必要。

② eBike のふるさと・自転車のまちの普及

森町の強みである eBike をより活用し、

- 自由に乗り降りできる「eBike の駅」の設置
- 観光・日常移動での活用促進
- 天浜線沿線や広域での PR
- 走りやすいサイクルロードの整備

などを進めることで、eBike のまちとしての認知向上を図る。

③ 企業誘致・町内就職先不足の解消

具体策として、

- 有料型ファクトリーツアー（サラダクラブ、ヤマハ発動機、茶・菓子店など）による地域 PR と収益創出
- 空き家を活用したコワーキングスペースの整備
- 企業誘致を進めるための行政による法規制の先行対応

が示され、雇用創出と関係人口の増加を目指す。

④ 廃校活用

- 廃校施設を、デザイナーやクリエイターの制作拠点、教室単位で使える研修・学びの場といった、知識・創造性を活かす場として再生することで、新たな価値を生み出す。

⑤ 町内消費を促す仕組みづくり

- 物価高騰対策として、プレミアム商品券の配布や現金給付を通じて町民の消費を喚起し、町内経済の活性化につなげる仕組みづくりが必要。

(3) 講評

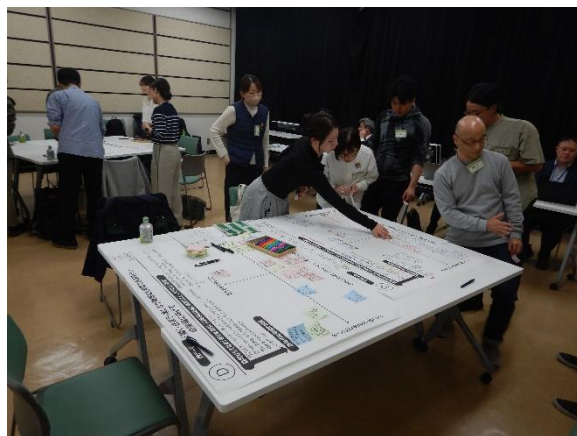
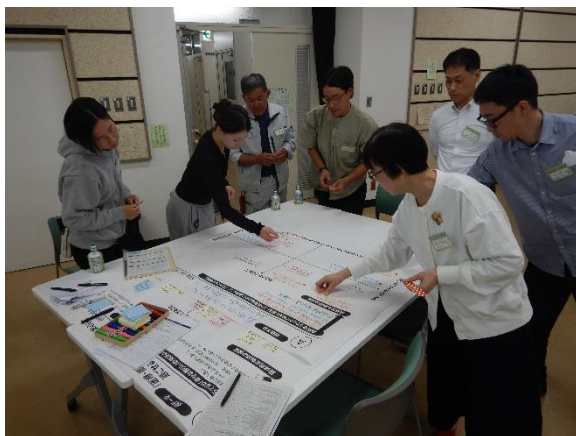
■ 町長の講評

- 今回のグループ発表を通じて、初対面の参加者同士の交流も生まれ、有意義な場になった。
- D グループから指摘された「森町の PR が行政の枠を出ていない」という意見について、町の取組が十分に住民へ届いていない現状が重要な気づきだった。
- 各グループからの提案については、行政的には「難しい」と考えてしまう視点もあるものの、今回は「すぐできること」「長期的に取り組むべきこと」「行政が担うこと」「住民が担うこと」を整理して示してもらえた点が、これからの森町にとって非常に重要である。
- まちづくりは行政だけで完結するものではなく、町民や町外の森町ファンを含め、皆で進めていく時代である。
- 一方で、人口減少に伴い役場職員の減少、公共施設の老朽化、財政的制約といった厳しい現実の中で、それらを限られた人・物・金の中でどう配分し、回していくかが行政の役割であり、そこに町民の力を貸してほしい。
- 現在は、行政単独ではなく、ヤマハ発動機をはじめとする民間企業・団体との連携によるまちづくりを進めており、アクティ森でのマウンテンバイクパーク開設、歴史文化施設「日本烏龍紅茶会社発祥の地 フジヤ」のオープンなど、具体的な成果が形になりつつある。
- 今後もこうした取組をさらに広げ、町に眠る資源を掘り起こし、磨き、輝かせていきたい。
- また、定住推進課を新設したものの、定住のハードルは高いため、まずは、関係人口 → 交流人口 → 二地域居住、という段階的なアプローチで、森町に関わる人を増やす施策を進めている。
- 森町が「遠州の小京都」として受け継いできた千年以上の歴史・伝統文化を大切にしながらも、時代に応じて新しい技術や価値（e-bike、水素など）を積極的に取り入れてきており、古いものを大事にしながら、常に新しい森町であり続けたい。
- 今回、住民から「行政がやるべきこと」だけでなく、「自分たちもやる」という提案が多く出たことに対し、森町の力と希望を強く感じた。

■ 教育長の講評

- 教育の立場から、「100 年続く町」という視点は重要だと感じた。現在、森町の学校は少子化で小規模化しているが、小さい学校には良さがあり、それを活かしてできるだけ存続させていきたい。ICT や学校間交流を活用すれば、小規模でも魅力ある教育は可能だと考える。
- 森町の子どもたちは郷土愛が強く、地域や学校への愛着は大きな強みである。実際に中学校では地域活性化をテーマに学ぶ機会もあり、子どもたち自身が町の将来を考えている。地域もこうした教育に関わっていくことが重要だと感じる。
- eBike は実際に体験して有効な資源だと感じており、地域クラブとして活用すれば町外からの参加も期待できる。部活動の地域移行とも相性が良い。
- また、二地域居住に関連してデュアルスクールの導入は有効であり、交流人口の拡大とともに、子ども同士の学びや気づきを生む仕組みとして進めたい。
- 教育は町の基盤であり、学校だけでなく地域全体で子どもを育てる意識が必要である。そのためにも、学校の取り組みを発信しながら、地域と連携していくことが重要である。

(4) 実施状況写真

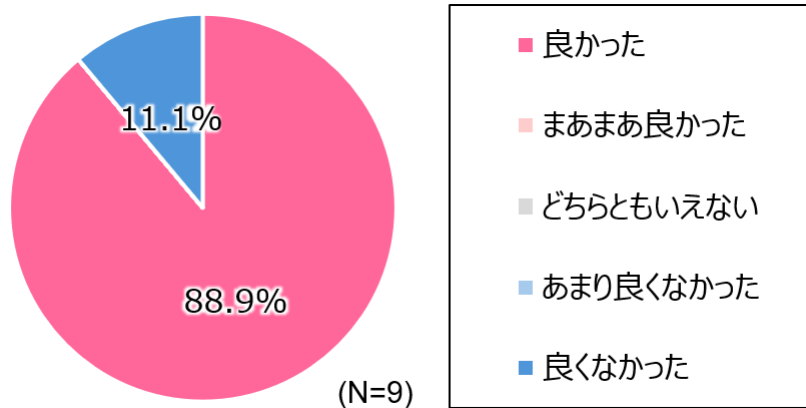




(5) 参加者アンケート

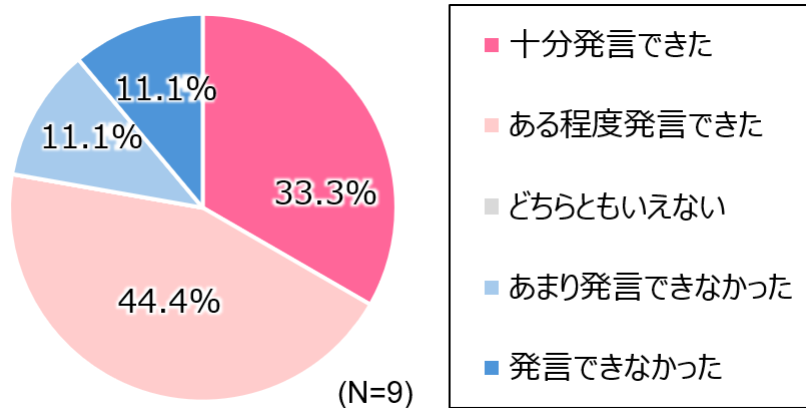
a) 参加して良かったか

問1	「森町まちづくり検討会」に参加して良かったと思われ ますか。	回答数	回答割合 (%)
選択肢	1 良かった	8	88.9%
	2 まあまあ良かった	0	0.0%
	3 どちらともいえない	0	0.0%
	4 あまり良くなかった	0	0.0%
	5 良くなかった	1	11.1%
	0 不明・無回答	0	0.0%
合計		9	100.0%



b) 自分の意見を十分に発言できたか

問2	「森町まちづくり検討会」では、ご自分の意見を十分に ご発言できましたか。	回答数	回答割合 (%)
選択肢	1 十分発言できた	3	33.3%
	2 ある程度発言できた	4	44.4%
	3 どちらともいえない	0	0.0%
	4 あまり発言できなかった	1	11.1%
	5 発言できなかった	1	11.1%
	0 不明・無回答	0	0.0%
合計		9	100.0%



c) 今後、町民参画の機会があれば、参加したいか

問3	今後、「森町まちづくり検討会」のような町民参画の機会があれば、参加してみたいと思いますか。	回答数	回答割合 (%)
選択肢	1 参加したい	4	44.4%
	2 できるだけ参加したい	4	44.4%
	3 どちらともいえない	1	11.1%
	4 あまり参加したくない	0	0.0%
	5 参加したくない	0	0.0%
	0 不明・無回答	0	0.0%
合計		9	100.0%

